

Ryukoku University



Course Guide

履修要項

Faculty of Psychology
心理学部

入学生用
2023

龍谷大学心理学部
2023年度入学生用

履修要項

『履修要項』は卒業まで使用しますので、大切に保管し、活用してください。

また、『履修要項』配付後に発生した変更、学年暦、各種日程、各学部窓口事務及び学部共通の各教育プログラム・諸課程については、履修要項WEBサイトを通じてお知らせします。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です
(お気に入り登録しておくとう便利です)。



《目 次》

はじめに	4
学生みなさんへ	
学年暦	
龍谷大学の「建学の精神」	
龍谷大学の教育理念・目的	
心理学部の教育理念・目的	
心理学部の卒業認定・学位授与の方針	
心理学部の教育課程編成・実施の方針	
学生支援の方針	
ガイダンス	
大学からの連絡・通知	
休講・補講・教室変更情報	
第1部 履修の心得	13
I 履修をはじめるとあたって	14
1. 長期的な履修計画を立てること	
2. 系統的に科目を履修すること	
3. 自主的に学修をすること	
4. オフィスアワー	
II シラバス	15
1. シラバスとは何か	
2. シラバスに記載されている情報	
3. シラバスの利用方法	
III 単位制度と単位の認定	16
1. 単位制度	
2. 履修登録制度	
3. 授業科目の履修	
4. 授業時間	
5. 卒業要件単位および学士号	
6. 入学前に修得した単位の認定	
IV 授業科目の開設方法	20
1. セメスター制	
2. 授業科目の開講形態	
3. 週2回授業科目の開講方法	
4. オンライン授業について	
5. 授業科目と授業テーマ	
6. 先修制	
7. グレイドナンバー制	
8. 科目ナンバリング	
V 履修登録	26
1. 履修登録手続スケジュール	
2. 履修登録制限単位数	
3. 予備・事前登録	
4. 履修登録要件	
5. 履修辞退制度	
6. 配当セメスターの考え方	
VI 成績評価	31
1. 成績評価の方法	
2. 成績評価の基準	
3. GPA制度	
4. 成績疑義	
5. 筆答試験の時期	
6. 受験資格	
7. 受験の注意事項	
8. 答案の無効	
9. 筆答試験における不正行為	
10. レポート試験における不正行為	
11. 追試験	
12. 筆答試験時間	
第2部 教育課程	37
I 教育課程の編成方法	38
1. 授業科目の区分	
2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目	
3. クラスの編成	
II 教養教育科目の教育目的および履修方法	39
1. 教養教育とは (1) 教養教育の理念・目的 (2) 教養教育科目とは (3) カリキュラムマップ	
2. 「仏教の思想」科目 (1) 目的と意義 (2) 履修方法	

3. 言語科目	(1) 目的と意義 (2) 必修外国語科目の履修 (3) 選択外国語科目の履修	
4. 教養科目	(1) 単位認定の方法 (2) 開講方式および履修方法	
5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録	(1) 予備登録の方法 (2) 予備登録できる上限科目数 (3) 予備登録結果発表 (4) 予備登録にあたっての注意事項 (5) 予備登録が不要な科目	
6. 留学生の必修外国語科目	(日本語科目等)	
7. 教養教育科目開設科目	(1) 「仏教の思想」科目 (2) 言語科目 (3) 教養科目	
III 心理学部における学修	57
1. 低年次における専門基礎科目	2. 高年次における専門発展科目	
3. 4年間の学修プログラム		
IV 心理学部専攻科目の教育目的および履修方法	59
1. 学修課程上の区分	2. 履修方法 3. 開設科目一覧 4. キャリア教育	
5. 卒業研究	6. 国家資格「公認心理師」 7. 科目ナンバリング	
V その他の教育課程・教育プログラム	73
1. データサイエンス・AIリテラシープログラム		
2. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種インターンシッププログラム	・留学／国際交流プログラム ・大学コンソーシアム京都「単位互換制度」 ・「放送大学科目」履修制度 ・RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム ・大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」	
3. 留学の単位認定について		
1) Ryukoku Intercultural Program留学	(1) 5-week summer program、5-week spring program (2) Fall semester program、Spring semester program	
2) 交換留学・私費留学における単位認定		
第3部 諸課程	79
I 諸課程	80
1. 諸課程	教職課程 本願寺派教師資格課程 公認心理師受験資格課程 認定心理士受験資格 児童指導員任用資格・児童の遊びを指導する者任用資格	
2. 特別研修講座・各種講座・試験		
第4部 学修生活の手引き	83
I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室	84
1. 窓口事務	2. 保健管理センター 3. 障がい学生支援室	
II 授業等の休講措置に関する取扱基準	85
III 学籍の取り扱い	86
1. 学籍とは	2. 学籍簿 3. 学生証 4. 学籍の喪失 5. 休学と復学	
6. 再入学	7. 編入学・転入学 8. 9月卒業	
第5部 ルーブリック	91
I 「ルーブリック」とは	92
II 心理学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック	93
III 卒業研究ルーブリック	95

はじめに

学生のみなさんへ

この履修要項は、龍谷大学心理学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修・修得しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、履修に関する詳細なガイダンス（履修説明会）が行われますのであわせて利用してください。不明な点があれば心理学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

学年暦

学年暦として、大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程を定めています。毎年度変更となりますので、履修要項WEBサイトで必ず確認してください。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です。



龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にす「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育理念・目的

建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成する。

〔学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針 （「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」 「入学者受入れの方針」）策定の基本方針〕

龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。

心理学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、主体的かつ実践的に対応できる人間を育成することを目的とする。

心理学部の卒業認定・学位授与の方針[学士(心理学)]

心理学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生に保証する基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方針を次に掲げる。

〈心理学部の学生に保証する基本的な資質・能力〉

○教養教育科目により保証する資質・能力

●専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができる。 ●他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけている。 ●社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができる。 ●心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができる。 ●よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生涯就業力を身につけている。

〈学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法〉

- ① 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- ② 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位を必要とする。
- ③ 卒業年次には、「卒業研究」を提出しなければならない。卒業研究提出後に卒業研究発表会を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

心理学部の教育課程編成・実施の方針

心理学部では、卒業時に「教育理念・目的」や、「卒業認定・学位授与の方針」に明示した「学生に保証する基本的な資質・能力」を確実に身につけられるように確かなカリキュラムを編成している。具体的には以下の方針に基づく。

〈心理学部の教育内容〉

○教養教育科目により保証する資質・能力

●専攻科目により保証する資質・能力

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<p>○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。</p>
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。</p> <p>●他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけ、人とのつながりを形成するために、「初年次科目（フレッシュャーズゼミ）」及び「導入科目（基礎演習）」を開講する。</p> <p>●行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができるようにするために、「導入科目（基礎演習）」、「基礎講義A」及び「基礎講義B」を開講する。</p>
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。</p> <p>●社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができるようにするために、「導入科目（基礎演習）」、「基礎講義B」及び「基礎講義C」を開講する。</p> <p>●社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけるために、「プログラム科目」、「演習」及び「卒業研究」を開講する。</p>

<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができるようにするために、4年間を通じて演習科目（「導入科目（基礎演習）」及び「演習」）を開講する。 ●心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができるようにするために、「プログラム科目」及び「演習」を開講する。 ●よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生涯就業力を身につけるために、「基礎講義A」及び「基礎講義B」にキャリア啓発にかかる科目を、「プログラム科目」にキャリア形成にかかる科目をそれぞれ開講する。
---	---

〈教育方法〉

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

〈学修成果の評価〉

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ①筆答試験による評価
 - ②レポート試験による評価
 - ③実技試験による評価
 - ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業研究の評価は、提出された成果物に対する評価と卒業研究発表会（試問含）における評価によって行う。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援、留学生支援、障がい学生支援の5つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、学生の主体的な学修を支援するとともに、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・障がいのある学生や留学生など、多様な学生の学修が円滑に進むよう支援する。
- ・本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生が、正課・課外を通じて豊かな人間性を育むとともに自省利他の精神に基づいて多様な価値観や異なる文化を尊重し、主体的に活動・成長できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な支援を行う。

「生活支援」は、学生生活を安心・安全に過ごすためのメンタルヘルス、トラブル、ハラスメント等に関する支援・相談や啓発等、学生生活に係る様々な支援を行う。

「経済支援」は、修学支援、家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、学業や課外活動等の奨学金の他、短期的な貸付等の支援を行う。

「課外活動支援」は、多様な学生が主体的に取り組むサークル活動、社会活動等の諸活動を通じて、学生一人ひとりが人間的な成長と調和の取れた社会の担い手になるための環境整備と支援を行う。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、建学の精神にもとづき、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことの出来る人間を育成し、社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むことを目的とし、一人ひとりに寄り添った支援を行う。その上で、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現のために、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部をはじめ各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を早期から育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力が身につくように取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to face の面談を重視し、それぞれの学生の状況を踏まえたきめ細やかで丁寧な支援を行う。

留学生支援の方針

本学における留学生支援は、学生が国籍、宗教及び文化の違いなどを乗り越え、多様な価値観を認め、世界平和の実現に寄与する人材となり得ることを目的として、本学学生が海外へ渡航する「派遣留学支援」及び海外からの留学生が本学で学ぶ「受入留学支援」を二本の柱として取り組む。

派遣留学支援は、学生の安全を最優先として進める。その上で、海外における外国語学習の効果に加えて、現地で価値観や文化の異なる多様な存在を知り、学び、受け入れる姿勢を身に付けることを目指す。また、経済的な側面で留学を躊躇せざるを得ない学生を支援する補助制度も充実させ、国際交流を志す学生が誰一人取り残されない体制の構築に取り組む。

受入留学支援においては、自国と異なる環境下においても、受入留学生が安心して生活を送り学修に注力できるよう、多様なニーズに応じ得る奨学金や留学生寮の整備を行うとともに、受入留学生に対する多言語での支援を展開する。加えて本学学生が自主的且つ主体的に受入留学生を支援することで双方が異文化理解を深められる仕組みを整える。

障がい学生支援の方針

本学では、誰一人取り残さないという理念のもと、修学の権利の主体が学生本人にあることを踏まえ、学生の要望に基づいた調整を図り、障がいのある学生の内発的主体性を育み、自立と社会参加につながる支援を行う。また、障がいの有無にかかわらず、学生が共に学びやすいインクルーシブな環境づくりに努める。その際、個々の状態や障がいの特性に応じ、適宜改善する姿勢で取り組んでいく。

これらの支援は、学内関係部署や学外の関係機関との有機的な連携に基づき行っていく。

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

履修説明会は、履修に関する詳細なガイダンスで、みなさんが学修の計画を立て、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、以下「大学からの連絡・通知」のとおり行われるので十分注意してください。

大学からの連絡・通知

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きポータルサイトで行います。ポータルサイトを見落としたために後で支障をきたさないよう、日頃からポータルサイトを確認するようにしましょう。また、個人への重要な連絡や通知等は大学が付与するメールアドレスに対しても行うことがあります。大学のメールアドレスも定期的に確認してください。

<ポータルサイト>

手段	アクセス方法
Web版	龍谷大学ポータルサイト ruis (https://portal.ryukoku.ac.jp/login) からアクセスしてください。 ポータルサイトの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。
アプリ版	龍谷大学ポータルサイトアプリサポートWeb (https://ru.portal.ac/support/) からアプリをダウンロードしてください。初回利用時には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。



休講・補講・教室変更情報

本学開講科目にかかる休講・補講・教室変更情報については、ポータルサイト上で公開しています。

<公開期間>

内 容		公開期間
休 講		30日後までの情報を公開
補 講		予定している全ての情報を公開
教室変更	臨時変更	30日後までの情報を公開
	恒常変更	前後30日分の情報を公開

<注意事項・補足>

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。
- ・本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供するポータルサイト

の情報を確認してください。

- ・休講、補講、教室変更情報の公開については、メールでの配信サービスも行っています。
Web版ポータルサイトの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。
- ・自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無の確認については、「II 授業等の休講措置に関する取扱基準」(85ページ)にて詳細を確認して下さい。

第1部 履修の心得

I	履修をはじめるにあたって	14
	1. 長期的な履修計画を立てること	
	2. 系統的に科目を履修すること	
	3. 自主的に学修をすること	
	4. オフィスアワー	
II	シラバス	15
	1. シラバスとは何か	
	2. シラバスに記載されている情報	
	3. シラバスの利用方法	
III	単位制度と単位の認定	16
	1. 単位制度	
	2. 履修登録制度	
	3. 授業科目の履修	
	4. 授業時間	
	5. 卒業要件単位および学士号	
	6. 入学前に修得した単位の認定	
IV	授業科目の開設方法	20
	1. セメスター制	
	2. 授業科目の開講形態	
	3. 週2回授業科目の開講方法	
	4. オンライン授業について	
	5. 授業科目と授業テーマ	
	6. 先修制	
	7. グレイドナンバー制	
	8. 科目ナンバリング	
V	履修登録	26
	1. 履修登録手続スケジュール	
	2. 履修登録制限単位数	
	3. 予備・事前登録	
	4. 履修登録要件	
	5. 履修辞退制度	
	6. 配当セメスターの考え方	
VI	成績評価	31
	1. 成績評価の方法	
	2. 成績評価の基準	
	3. GPA制度	
	4. 成績疑義	
	5. 筆答試験の時期	
	6. 受験資格	
	7. 受験の注意事項	
	8. 答案の無効	
	9. 筆答試験における不正行為	
	10. レポート試験における不正行為	
	11. 追試験	
	12. 筆答試験時間	

I 履修をはじめるとあって

大学では高校までと異なり、履修や学生生活に関するすべてのことが自分の責任に委ねられています。それだけに、各自が履修制度について十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんは、これら2つの「授業科目の区分」から、卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また、各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が教育方針に基づいて配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、履修計画を立てるときには、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

大学における学業は、学部毎に定められた所定の要件を満たすことで完了しますが、その一環として一定の単位数を修得する必要があります（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたには多くの組み合わせがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修では、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて、各科目の性格やその科目の配当セメスターを考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組み、専門的な視点に立って研究することが肝要となります。「演習」をはじめる前に、「演習」における自身のテーマの研究にとって土台となる知識や思考力、さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に授業を受けるだけでなく、授業そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、授業以外に自主的な学修が必要です。そのため、シラバス（講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したもの）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、授業を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とディスカッションをしたりすることで理解を深めることも大切です。

4. オフィスアワー

教員と面談したい場合、深草学舎は6号館（紫英館）1階の面談ホール受付、大宮学舎は西覺1階の講師控室を訪れてください。オフィスアワーの一覧表はポータルサイトでお知らせします。

一覧に名前のない先生については、授業の前後に講師控室や授業後の教室にて質問をしてください。

II シラバス

1. シラバスとは何か

シラバス (Syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したものです。

本学で開講されている全ての科目は、あらかじめWeb上に公開されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名だけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学修計画を立て、系統的な履修を行ってください。

履修心得

シラバス

2. シラバスに記載されている情報

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル
- ② 講義概要
- ③ 到達目標 (目的・ねらい)
- ④ 講義方法
- ⑤ 授業時間外における予・復習等の指示
- ⑥ 系統的履修
- ⑦ 成績評価の方法
- ⑧ テキスト・参考文献
- ⑨ 履修上の注意・担当者からの一言
- ⑩ オフィスアワー・教員との連絡方法
- ⑪ 講義計画 (回数・担当者・学修内容)

※授業時間外における予・復習の指示、参考文献、履修上の注意・担当者からの一言、オフィスアワー・教員との連絡方法、参考URL、資料、講義計画については、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

3. シラバスの利用方法

シラバスはすべてWeb上で公開されています。ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

III 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修は単位制で行われています。

単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

<単位とは>

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1	30時間	15時間	45時間	15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では、単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では、1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では、セメスター型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、通年型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
セメスター型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位
通年型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき） ＝4単位

○外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
Semester型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき） ＝1単位
通年型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位

<単位の認定>

1つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け、その成績評価で合格（60点以上）をすること（レポート、論文等をもって試験とする場合があり、必ずしも教室における筆答試験とは限りません。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認してください）。

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この手続きをしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自己の責任において取り組まなければなりません。

<履修登録の方法>

後に説明するSemester制により、履修登録は、第1学期（前期）、第2学期（後期）の年2回行われます（ただし、4年次生以上は、第1学期（前期）に第2学期（後期）開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期（前期）履修登録は、第1学期（前期）開講科目と通年科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。

第2学期（後期）履修登録は、第2学期（後期）開講科目を登録します。なお、第2学期（後期）登録時に通年科目の履修を放棄して別の第2学期（後期）開講科目を登録することはできません。

※サマーセッションで開講される科目は、上述のとおり、第1学期（前期）に登録することになりますが、成績は第2学期（後期）の成績表に反映されます。

3. 授業科目の履修

履修登録をした科目を履修するということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修（予・復習）とを含んでいます。

このうち、授業時間内における学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、授業時間外における自主的な学修（予・復習）は、「シラバス」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行う学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっているとと言えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して、各講時の時間帯は次のとおりです。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時	6 講時	7 講時
開始時刻	9 : 15	11 : 00	13 : 30	15 : 15	16 : 55	18 : 35	20 : 10
終了時刻	10 : 45	12 : 30	15 : 00	16 : 45	18 : 25	20 : 05	21 : 40

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要です。その一環として、124単位以上を修得しなければなりません。

<卒業の要件>

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。また、卒業判定が行われる学期に在学していなければなりません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています（詳細は「第2部 教育課程」の「I 教育課程の編成方法」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

<卒業研究>

提出方法・提出時期等については別途、ポータルサイト・掲示でお知らせします。

<卒業の時期>

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

(2) 9月卒業の取り扱い

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者について、第1学期（前期）終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

(注) 9月卒業を希望する者は、所定の期間に申し出て、所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。**(本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください。)** 89ページを参照。）

<卒業要件表>

心理学部の卒業要件は、下表のとおりです。

心理学部（124単位以上）				
教養教育科目	仏教の思想 A	4 単位		
	仏教の思想 B			
	必修外国語	12単位		
	教養科目	人文科学系科目	2 単位	
社会科学系科目		2 単位		
自然科学系科目		2 単位		
選択科目		14単位以上		
心理学部専攻科目	演習科目	8 単位		
		専門基礎科目	基礎講義 A	22単位
	基礎講義 B		24単位 ※ 1	
	基礎講義 C		4 単位	
	専門発展科目	演習・卒業研究	12単位	
		プログラム科目	24単位 ※ 1	
共通選択科目				
フリーゾーン			18単位 ※ 2	

※ 1 「専攻科目 専門基礎科目：基礎講義B」、「専攻科目 専門発展科目：プログラム科目」、「専攻科目 共通選択科目」から24単位選択。

※ 2 フリーゾーン：教養教育科目または専攻科目等からのどちらからでも認定できる履修要件箇所。

6. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次の年度始めまたは2年次の年度始めに願い出た者に限り、心理学部の認定基準にしたがって、出身大学で修得した科目を、本学心理学部の科目として認定することがあります。心理学部教務課窓口で確認してください。

IV 授業科目の開設方法

1. セメスター制

心理学部の授業は、セメスター制で開設されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し^{*}、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目（詳細は「第2部 教育課程」の「I 教育課程の編成方法」を参照）が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目は、それを履修し単位を修得しないと卒業することができない科目です。また、選択必修科目も同じ性格を有する科目です。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

^{*}実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開講形態

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の2つの開講方式をとっています。

①【セメスター型（前期・後期型）】 [学期] → [週1回] (授業15週間) [週2回]	講義科目	外国語科目	実技科目
	2単位		1単位
	4単位		2単位
②【通年型（通年型）】 [学期] → [学期] [週1回] (授業30週間)	講義科目	外国語科目	実技科目
	4単位		2単位

[留意点]

- セメスター型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことはありませんので、注意する必要があります。
- 通年型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。

(3) 同一科目の授業が第1学期（前期）・第2学期（後期）ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除き、いずれの学期で履修しても構いません。

(注1) それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。

(注2) すでに修得した科目（＝既修得科目）の再履修はできません。

(4) サマーセッションを利用して開講される科目については、下記の取扱となります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション	第2学期 (後期)科目	<ul style="list-style-type: none"> 開講期間については、ポータルサイトで確認してください。 第1学期（前期）開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

(注) 履修登録できる科目数は2科目までとなります。

授業日程が他の科目と重複する場合は、1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。

サマーセッションの開講期間・開講場所などについては、別途ポータルサイトにてお知らせします。

3. 週2回授業科目の開講方法

セメスター型授業のうち、週2回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則（組合せ）にしたがって配置されています。

この科目は、週2回の授業を所定の期間（セメスター型であれば半年間）継続して受講し、合格することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

<週2回授業科目の開講組合せ（原則）>

月1 — 木1	火1 — 金1	水1 — 土1
月2 — 木2	火2 — 金2	水2 — 土2
月3 — 木3	火3 — 金3	
月4 — 木4	火4 — 金4	

(注1) 見方：「月1」は「月曜日1講時」を示しています。

(注2) 1日に2講時連続で開講される科目もあります。

4. オンライン授業について

本学では、対面にて授業を行う科目のほか、一部においてインターネット環境を利用してオンライン上で授業を行う科目があります。

(1) オンライン授業の形態

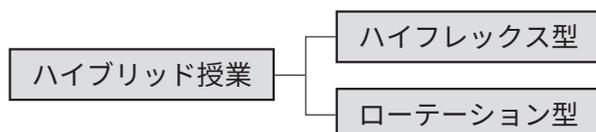
① オンライン授業の実施形態

本学では、次のようにオンライン授業の実施形態を区分しています。



② オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態

オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態として、ハイブリッド授業があります。



(2) オンライン授業の定義

① オンライン授業

本学におけるオンライン授業とは、インターネットを介して、文字・音声・静止画・動画等の多様な情報を、当該授業を行う教室等以外の場所にいる学生に対して配信し、設問解答や意見交換などを実施することにより、学修を進めていくもので、標準的な1コマ（1回分）のすべてを上記のような方法を用いて行う授業を指します。

<ライブ授業>

上記オンライン授業の一形態としてライブ授業があります。ライブ授業とは、オンライン授業のうち、同時かつ双方向（教員と学生）で授業を行うものを指します。ライブ授業を詳細に分類すると「同時双方向型」と「同時一方向」に分かれますが、本学においては、双方向性が確保できる「同時双方向型」を指します。

<オンデマンド授業>

上記オンライン授業の一形態としてオンデマンド授業があります。オンデマンド授業とは、オンライン授業のうち、予め収録した授業（動画・音声）や音声付PowerPoint動画等を配信し、あわせて課題指示等を行うものを指します。

② ハイブリッド授業

オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業形態としてハイブリッド授業があります。ハイブリッド授業には、2つの形態（ハイフレックス型、ローテーション型）があります。

<ハイフレックス型>

対面授業をライブ配信することにより、オンラインとしても行う授業のことを指します。

（例）対面希望の学生とオンライン希望の学生を2グループに分けて実施する授業。

<ローテーション型>

全開講回数のうち、各回によって対面とオンラインを使い分ける授業のことを指します。

（例）全15回のうち、4回目～11回目をオンラインで実施し、その他は対面で実施する授業。

(3) オンライン授業科目

① オンライン授業科目とは

オンライン授業として実施する科目のうち、オンラインでの授業回数など一定の要件を満たした科目は開講学部等において「オンライン授業科目」として位置づけています。

② オンライン授業科目の履修要件

オンライン授業科目は、60単位を上限に卒業要件単位数として単位認定されます。60単位を超えて修得したオンライン授業科目は随意科目（卒業要件単位数には含まない）として取り扱います。

＜龍谷大学学則＞（抜粋）

第25条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第34条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

※新型コロナウイルス感染症の影響により対面での授業実施が困難（一部のみの対面での授業実施を含む）と大学が判断した場合のオンライン授業科目は、卒業要件単位となる単位数の上限（60単位）に含まないことがあります。

(4) オンライン授業を受講するにあたって

オンライン授業は、以下の情報環境を準備した上で受講してください。

① 自身所有のパソコン等を利用する

心理学部では、学生の情報処理・活用スキルの向上をめざして、パソコンを利用する授業を多く実施しています。また、授業時間内外の様々な場面でパソコンを活用することが必要となることから、携行が容易なノートパソコン等のデバイスをもつことを推奨しています。

ノートパソコン等の仕様については、以下のウェブサイトを確認し準備してください。

- ・心理学部ノートPC等の必携化 <https://www.ryukoku.ac.jp/psy/about/byod.html>

※必要なスペックを満たすノートパソコン等をすでに所有している場合は新たに用意する必要はありません。

※本学ではMicrosoft社との包括ライセンス契約により、在学中は無料でOfficeソフト（Word, Excel, PowerPointなど）が利用可能です。Office付属のノートパソコンやOfficeのライセンスを用意いただく必要はありません。

② キャンパス内の施設・機器を利用する

キャンパス内の施設や機器を利用し、オンライン授業を受講することができます。

- スチューデントコモンズでノートパソコンの貸し出しを受ける。【学内利用に限る】

深草学舎：和顔館1階スチューデントコモンズ（ラーニングサポートデスク）

大宮学舎：東覺2階スチューデントコモンズ（PC貸出カウンター）

瀬田学舎：智光館地下1階情報メディアセンター

- セルフラーニング室のパソコンを利用する。

深草学舎：5号館3階

大宮学舎：清風館1階

瀬田学舎：3号館地下1階



(5) オンライン授業科目の確認方法

オンライン授業科目はポータルサイト（履修登録画面）及び龍谷大学履修要項WEBサイトにて確認することができます。

- ・本学履修要項WEBサイト

(URL) <https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/rishu.html>



5. 授業科目と授業テーマ

「授業科目」は単位を認定する区分を示すものです。この授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として、「授業テーマ」が示されています。

同じ授業科目名で複数クラスが開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマのクラスを履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは1つの科目に対して1回だけです（授業テーマが異なっていたとしても、同じ授業科目を複数クラス履修することはできません）。

また、「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

6. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修の要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。

先修制が設定されている科目は次のとおりです。

<教養教育科目>

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
ドイツ語Ⅱ, IIIA~IIID	「ドイツ語Ⅰ」(2単位)
フランス語Ⅱ, IIIA~IIID	「フランス語Ⅰ」(2単位)
中国語Ⅱ, IIIA~IIID	「中国語Ⅰ」(2単位)
スペイン語Ⅱ, IIIA~IIID	「スペイン語Ⅰ」(2単位)
コリア語Ⅱ, IIIA~IIID	「コリア語Ⅰ」(2単位)
ドイツ語セミナーⅠA~ⅠD	「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
フランス語セミナーⅠA~ⅠD	「フランス語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
中国語セミナーⅠA~ⅠD	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
スペイン語セミナーⅠA~ⅠD	「スペイン語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
コリア語セミナーⅠA~ⅠD	「コリア語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ドイツ語セミナーⅡA~ⅡD	「ドイツ語IIIA~IIID」(計4単位) または 「ドイツ語セミナーⅠA~ⅠD」(各2単位) より2科目 (計4単位)
フランス語セミナーⅡA~ⅡD	「フランス語IIIA~IIID」(計4単位) または 「フランス語セミナーⅠA~ⅠD」(各2単位) より2科目 (計4単位)
中国語セミナーⅡA~ⅡD	「中国語IIIA~IIID」(計4単位) または 「中国語セミナーⅠA~ⅠD」(各2単位) より2科目 (計4単位)
スペイン語セミナーⅡA~ⅡD	「スペイン語IIIA~IIID」(計4単位) または 「スペイン語セミナーⅠA~ⅠD」(各2単位) より2科目 (計4単位)

韓国語セミナーⅡA～ⅡD	「韓国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「韓国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
ドイツ語コミュニケーションⅡ	「ドイツ語Ⅰ」(2単位) または 「ドイツ語コミュニケーションⅠ」(2単位)
フランス語コミュニケーションⅡ	「フランス語Ⅰ」(2単位) または 「フランス語コミュニケーションⅠ」(2単位)
中国語コミュニケーションⅡ	「中国語Ⅰ」(2単位) または 「中国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	「スペイン語Ⅰ」(2単位) または 「スペイン語コミュニケーションⅠ」(2単位)
韓国語コミュニケーションⅡ	「韓国語Ⅰ」(2単位) または 「韓国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
英語セミナー B1, B2, C1, C2, E1, E2, F1, F2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B)」(計4単位)
英語セミナー D1, D2, H1, H2, J1, J2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B), 4(A), 4(B)」(各1単位) より4科目(計4単位)
海外中国語研修講座	「中国語Ⅰ, Ⅱ」(計4単位)
ポルトガル語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ポルトガル語Ⅰ」(2単位)
ロシア語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ロシア語Ⅰ」(2単位)
ペルシア語Ⅱ	「ペルシア語Ⅰ」(2単位)

7. グレイドナンバー制

心理学部で開設される授業科目には、グレイドナンバーが付されています。これは、科目のレベルを簡明に表示したものです。学修計画の設計にあたって、これを参考にしてください。

基礎		—————→				応用
グレイド	100	200	300	400	500	

8. 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。詳細は、別途記載の開設科目一覧を確認してください。

V 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。



2. 履修登録制限単位数

大学での学修においては、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、心理学部では次のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

年次	1～3年次生		4年次生
学期	第1学期	第2学期	通年
履修制限単位数	24単位	24単位	48単位

(注1) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在籍生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学した者については、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

(注2) 通年科目の単位数は、第1学期（前期）と第2学期（後期）で2分割して計算します。

(注3) この履修制限には、次の科目は含まれないことから、制限単位数を超えて履修登録することができます。ただし、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点からすれば、制限単位数を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目
(時間割番号「Z」が含まれる科目)
- ② サマーセッションに開講される科目
- ③ 「海外英語研修」(教養科目)
- ④ 「海外中国語研修講座」(教養科目)
- ⑤ 大学コンソーシアム京都科目(単位互換科目、インターンシップ)

(注4) 累積GPAが一定の基準に達した学生については、履修登録制限単位数を緩和し、上限を超えて履修できる制度を導入しています。以下の要件に該当する学生は、各学期の履修指導期間に、心理学部教務課へ申し出てください。

- ① 申請可能となる基準GPA 前学期までの累積GPA3.5以上
- ② 制限緩和となる単位数 各学期2単位を上限とし、年間4単位を上限
- ③ 申請可能となる対象科目 履修登録可能科目のうち、予備登録科目(教養教育科目)・事前登録科目および演習科目を除く。
- ④ 申請期間 毎学期初めの履修指導期間
(※詳しくはポータル等でご確認ください)
- ⑤ 申請方法 詳細は、ポータル等でお知らせします

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録 (広義)	1) 予備登録……………	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。教養教育科目や言語科目（選択外国語科目）においてこの手続きが必要です。
	2) 事前登録……………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。必修外国語の再履修や一部の専攻科目等においてこの手続きが必要です。
	3) 履修登録（本登録）… (狭義)	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が確定します。

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外に下級年次配当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や開講セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑥ 各学期（各セメスター）および各年次において、定められている履修登録制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、ポータルサイトにてお知らせします。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、心理学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期間内に必ず登録してください。

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。



- ④ 受講登録確認表の出力による登録確認

登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、心理学部教務課窓口へ申し出てください。また、出力した受講登録確認表は、必ず保管してください。

⑤ 深草・大宮学舎間の連続受講について

原則として、深草学舎と大宮学舎間の連続受講は認められません。ただし、次の場合に限り、連続受講が認められます。

- (a) 2講時と3講時の学舎間連続受講（昼休みを含み移動時間が確保されているため）
- (b) 演習科目・卒業要件である必修科目・資格取得に関わる必修科目の受講（選択必修科目は除きます）
- (c) (b)にかかわらず残りの卒業要件単位からみて選択必修が事実上必修となる科目の受講
- (d) その他、心理学部教授会において必要であると認められた科目の受講

連続受講となる科目のうち、1つの時間帯の科目（例：3講時・深草、4講時・大宮の場合における、4講時・大宮開講科目）の履修機会が次年度にある場合は、上記の条件であっても大宮・深草学舎間連続受講を許可しません。卒年次生以外は、次年度に履修機会があるので、原則として次年度登録をすることとします。

5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正」や「取消」するものであり、以前の履修履歴は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修履歴が記録として残ります。

受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、次のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・課程・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・専攻・コース）によって取扱が異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目（注）	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習、介護等体験に関する科目	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。

（注）教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆心理学部が設定する履修辞退対象外科目

生涯発達臨床心理学 ライフサイクルとカウンセリング 家族療法とシステムズアプローチ 目からウロコのコミュニケーション学
--

履修心得

履修登録

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。履修説明会・ポータルサイト等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルサイトの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中にポータルサイトを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に心理学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目について、第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時にセメスター型の後期開講科目を履修登録することができます。なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 配当セメスターの考え方

それぞれの科目には配当セメスターが設定されており、設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示しています。

- (1) 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- (2) 配当セメスターにかかわらず、開講期（開講セメスター）は年度により変更することがあります。
- (3) 一部の科目については、配当セメスター以外での履修を行うことができないなどの特性があります。詳細は、心理学部教務課窓口にて確認してください。
- (4) 半期休学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるときは、配当セメスターより前の履修を認めることがあります。ただし、履修登録にあたっては予め心理学部教務課窓口で相談してください。

VI 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修して成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90～100点)	A (80～89点)	B (70～79点)	C (60～69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月中旬、第2学期（後期）分を3月下旬にポータルサイトよりダウンロードできます。日程の詳細は、別途ポータルでお知らせします。

3. GPA制度

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。

GPAは、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語総合1（A）」（1単位）80点、「心の科学A」（2単位）40点、「生物科学のすすめ」（4単位）76点を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2 \times 4) + (1 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 4} = \frac{19}{9} = 2.11$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、心理学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間および申出方法については、別途ポータルサイト等で確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（追試験の項を参照のこと）

6. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一、学生証を忘れた場合には、心理学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
[持ち込み条件が「全て可」であっても、携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等情報端末機器の使用は一切認めない]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

8. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度の不良な場合

9. 筆記試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合
 - ② 監督者の指示に従わない場合
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行かせた場合
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等情報端末機器をかばん等にしまっていない場合
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
 - ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
 - ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等からコピーしたような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

11. 追試験

（1）追試験の受験資格

追試験は次の各号のいずれかの理由により定期試験を欠席し、所属学部が認めると受験することができます。

- ① 病気、怪我又は試験時における体調不良等
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀への参列
- ③ 公認サークルの公式戦への選手としての参加
- ④ 交通機関の遅延等
- ⑤ 交通事故、災害等
- ⑥ 就職活動（説明会、筆記試験、面接等）
- ⑦ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）の受験
- ⑧ 単位互換科目の試験受験
- ⑨ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）又は博物館実習への参加
- ⑩ 裁判員（候補者）への選任
- ⑪ 短期大学部における実習等への参加により本学学部の定期試験を受験できなかった場合
- ⑫ その他所属学部が特に必要と認める理由

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書（WEB発行の証明書可）または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に心理学部教務課窓口に提出しなければなりません。

なお、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に心理学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

（2）追試験の受験料は、1科目1,000円です。

（3）実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前にポータルサイトまたは掲示板等にて確認してください。

12. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルサイトにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻
1 講時	9 : 15	10 : 15
2 -A講時	10 : 45	11 : 45
2 -B講時	12 : 15	13 : 15
3 -A講時	13 : 45	14 : 45
3 -B講時	15 : 15	16 : 15
4 講時	16 : 45	17 : 45
5 講時	18 : 15	19 : 15
6 講時	19 : 30	20 : 30
7 講時	20 : 45	21 : 45

(注1) 教養教育科目のうち、学部提供科目については、当該学部が定める試験時間となります

(注2) 科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

第2部 教育課程

I	教育課程の編成方法	38
1.	授業科目の区分	
2.	必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目	
3.	クラスの編成	
II	教養教育科目の教育目的および履修方法	39
1.	教養教育とは	
(1)	教養教育の理念・目的	
(2)	教養教育科目とは	
(3)	カリキュラムマップ	
2.	「仏教の思想」科目	
(1)	目的と意義	
(2)	履修方法	
3.	言語科目	
(1)	目的と意義	
(2)	必修外国語科目の履修	
(3)	選択外国語科目の履修	
4.	教養科目	
(1)	単位認定の方法	
(2)	開講方式および履修方法	
5.	教養科目、選択外国語科目の予備登録	
(1)	予備登録の方法	
(2)	予備登録できる上限科目数	
(3)	予備登録結果発表	
(4)	予備登録にあたっての注意事項	
(5)	予備登録が不要な科目	
6.	留学生の必修外国語科目（日本語科目等）	
7.	教養教育科目開設科目	
(1)	「仏教の思想」科目	
(2)	言語科目	
(3)	教養科目	
III	心理学部における学修	57
1.	低年次における専門基礎科目	
2.	高年次における専門発展科目	
3.	4年間の学修プログラム	
IV	心理学部専攻科目の教育目的および履修方法	59
1.	学修課程上の区分	
2.	履修方法	
3.	開設科目一覧	
4.	キャリア教育	
5.	卒業研究	
6.	国家資格「公認心理師」	
7.	科目ナンバリング	
V	その他の教育課程・教育プログラム	73
1.	データサイエンス・AIリテラシープログラム	
2.	留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種インターンシッププログラム	
	・留学／国際交流プログラム	
	・大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	
	・「放送大学科目」履修制度	
	・RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム	
	・大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」	
3.	留学の単位認定について	
1)	Ryukoku Intercultural Program留学	
2)	交換留学・私費留学における単位認定	

I 教育課程の編成方法

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8セメスター）にわたっており、その内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

- ・教養教育科目（「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目）
- ・専攻科目

2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに指定されています。

必修科目	卒業要件を満たすために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。
選択必修科目	指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して単位を修得しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。
選択科目	どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。
随意科目	主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。そのため、随意科目は教養教育科目、学部専攻科目の区分の外に置かれます。

3. クラスの編成

(1) クラスとは

クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。

(2) クラスの種類

クラスには次の種類があります。

- ① 必修外国語クラス
- ② 学部専攻科目クラス（基礎演習等）

これらはそれぞれに定員が異なるためクラスの構成員は一致しません。

(3) アドバイザークラス

アドバイザークラスとは1年次、2年次においてみなさんの大学における学修生活の相談相手となる担当がおかれている学部専攻科目クラス（基礎演習）のことで、

ポータルサイトや時間割表での伝達や指示の際に使用されるクラス名はすべてこのアドバイザークラスのことを指します。

II 教養教育科目の教育目的および履修方法

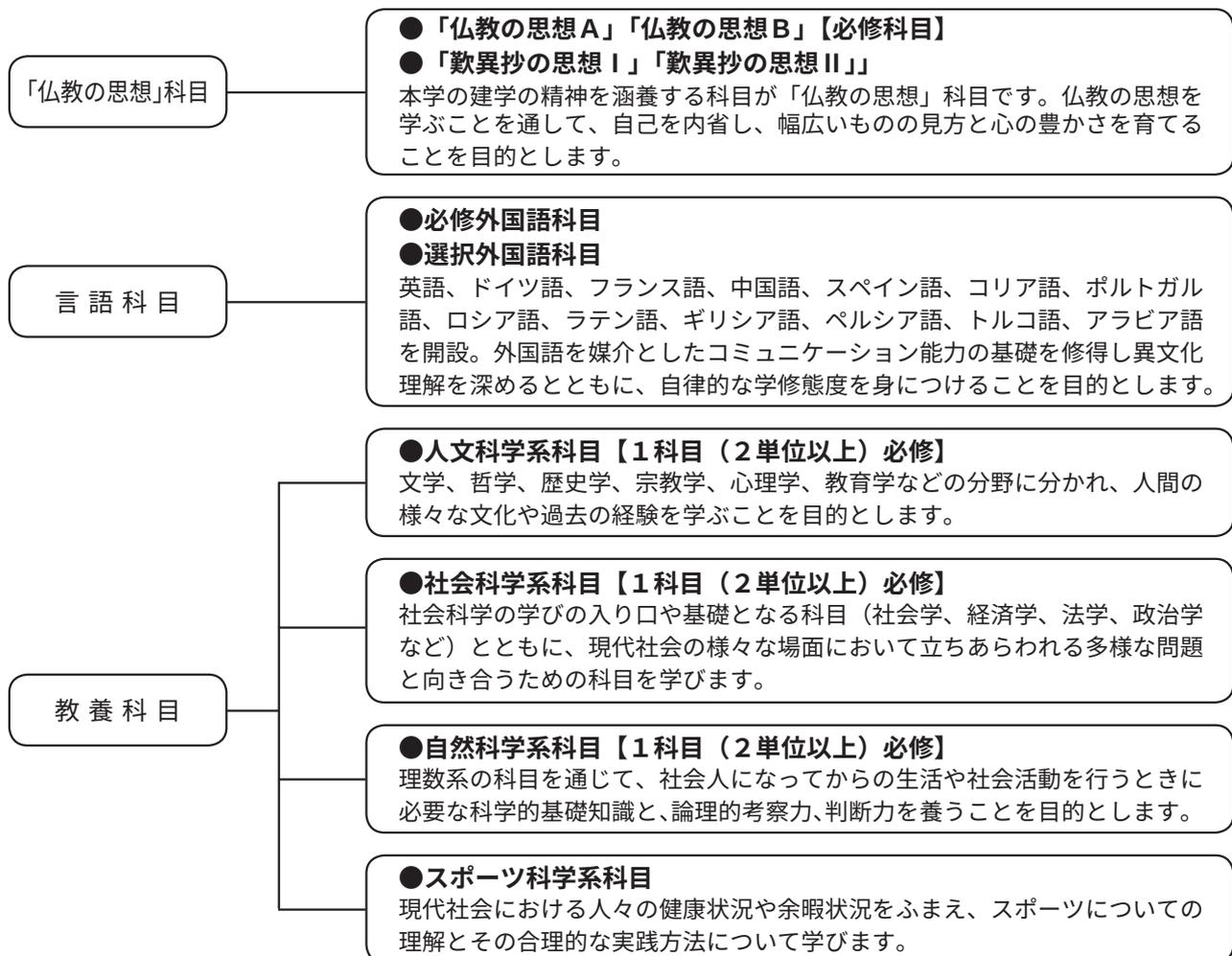
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

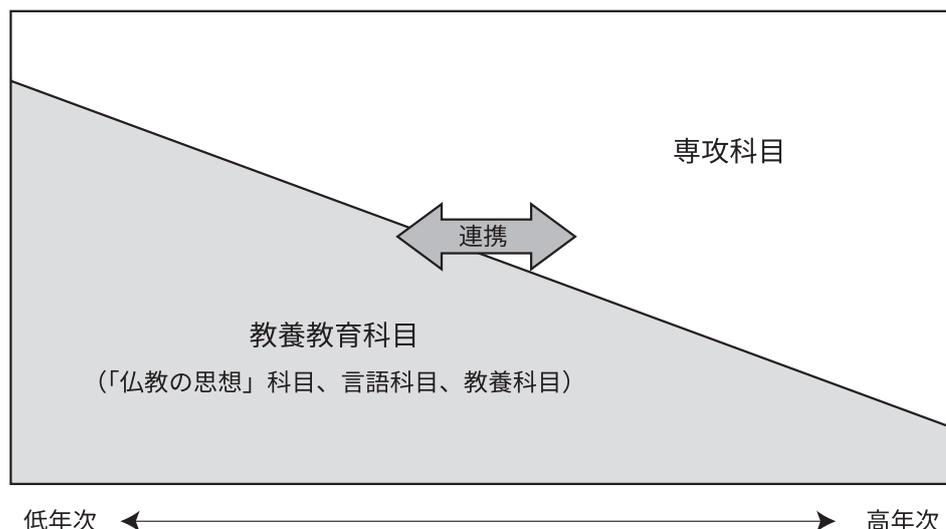
龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、「仏教の思想」科目、言語科目、教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



(3) カリキュラムマップ



		配当セメスター							
		1	2	3	4	5	6	7	8
「仏教の思想」科目	仏教の思想等	本学の建学の精神を涵養する							
	言語科目	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得し、							
	初修外国語科目	異文化理解を深めるとともに、自律的な学修態度を身につける							
教養科目	人文科学系科目	人間の様々な文化や過去の経験を学ぶ							
	社会科学系科目	現代社会の様々な場面において立ちあらわれる多様な問題と向き合う							
	自然科学系科目	社会人になってからの生活や社会活動を行うときに必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養う							
	スポーツ科学系科目	スポーツについての理解とその合理的な実践方法について学ぶ							

2. 「仏教の思想」科目

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また、入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法

① 必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当されたセメスターにおいて必ず履修してください。

② 選択科目

「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」は選択科目で、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」「仏教の思想B」は同一の授業担当者になります。学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。なお、9月入学生については、所属学部教務課の指示にしたがって履修してください。

④ 「仏教の思想A」「仏教の思想B」の再履修

配当されたセメスターで不合格となった場合は、2年次以降に再度履修してください。なお、この場合は、上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。各自、履修登録を行ってください。

年次	セメスター	科目名
2年次～	3	「仏教の思想A」（正規クラスを再履修として履修）
	4	「仏教の思想B」（正規クラスを再履修として履修）
3年次 (注)	5	「仏教の思想A」（正規クラスを再履修として履修） 「仏教の思想B」（再履修クラス）
	6	「仏教の思想A」（再履修クラス） 「仏教の思想B」（正規クラスを再履修として履修）

(注) 3年次以上は、同一セメスターで、A・Bを同時履修することが可能です。

3. 言語科目

言語科目には、必修外国語科目と選択外国語科目があります。必修外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語が、選択外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・ポルトガル語・ロシア語・ラテン語・ギリシア語・ペルシア語・トルコ語・アラビア語が開設されています。必修外国語科目12単位は必ず修得してください。

(1) 目的と意義

外国語教育では、母語とは異なる言語に接することで、母語に基づいた思考様式とは異なった思考様式に対する認識・理解を深めることができます。また、これにより、外国の文化、芸術、社会におけるさまざまな伝統や価値観をより深く理解する能力も養われます。さらにそれは、日本語を客観的にながめ、自

らの日本語能力を見直すよい機会ともなるでしょう。このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。こうした目標を達成するには、地道な努力の継続が欠かせないこと、また、授業時間外における自主的な学修も必要であることを心に留めておいてください。

[英語]

●必修外国語科目・英語（英語総合）の到達目標

標準的な語彙を用いた文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるようにします。また、基本的な文法能力や談話能力を身につけたうえで、さらに発展的な高次の学習環境を自発的に創造できるような自律的な学習態度を身につけます。

●選択外国語科目・英語（英語セミナーなど）の到達目標

基礎的な英語運用能力のさらなるレベルアップをはかるとともに、専門分野での学習、海外留学、資格試験対策など、個々の学生のニーズに合わせた知的情報の受信・発信能力のさらなる向上をめざします。

[初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中から、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語の5言語を「初修外国語」として必修科目に組み入れています。

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

(2) 必修外国語科目の履修

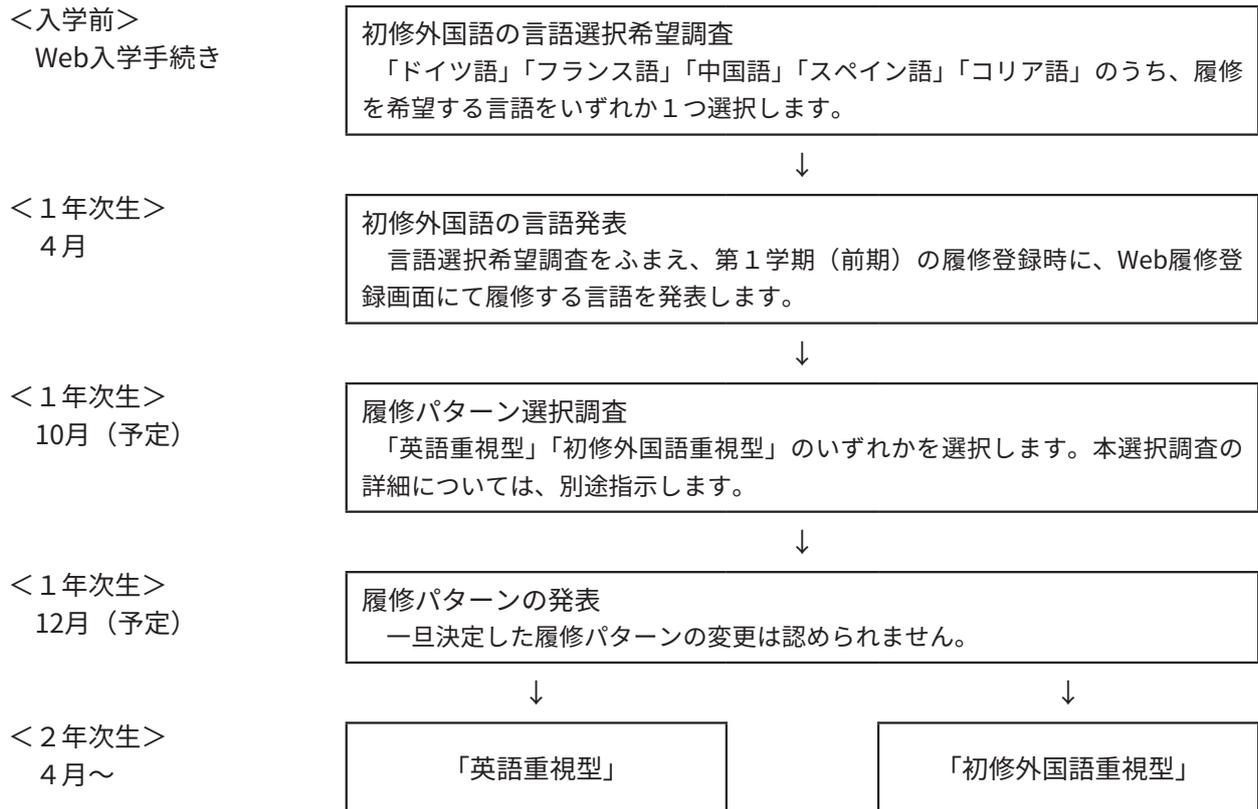
「読む・書く・聴く・話す」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

計12単位を必修とし、1年次には英語と初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語のうち1つを選択）を学び、2年次には英語（英語重視型の場合）もしくは初修外国語（初修外国語重視型の場合）のいずれかを学びます。

① 開設科目・配当セメスター（履修パターン別）

1年次		2年次		
第1セメスター 〈4単位〉	第2セメスター 〈4単位〉	履修パターン	第3セメスター 〈2単位〉	第4セメスター 〈2単位〉
<英語 4単位> 英語総合1(A) (週1回：1単位) 英語総合2(A) (週1回：1単位) 英語総合1(B) (週1回：1単位) 英語総合2(B) (週1回：1単位)		英語重視型	<英語 4単位> 英語総合3(A) (週1回：1単位) 英語総合4(A) (週1回：1単位) 英語総合3(B) (週1回：1単位) 英語総合4(B) (週1回：1単位)	
<初修外国語 4単位> I (週2回：2単位) II (週2回：2単位)			初修外国語重視型	<初修外国語 4単位> IIIA (週1回：1単位) IIIB (週1回：1単位) IIIC (週1回：1単位) IIID (週1回：1単位)

② 初修外国語の言語及び履修パターンの選択スケジュール



③ 習熟度別クラス編成

英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。

1年次クラスは入学時に実施する英語クラス編成テスト（プレイスメントテスト）、2年次クラスは1年次の12月頃に実施する英語クラス編成テスト（英語総合確認テスト）の得点結果によって編成します。

④ 先修制

必修外国語科目のうち以下の科目には先修制が定められています。

授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位数
ドイツ語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	ドイツ語Ⅰ（2単位）
フランス語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	フランス語Ⅰ（2単位）
中国語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	中国語Ⅰ（2単位）
スペイン語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	スペイン語Ⅰ（2単位）
コリア語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	コリア語Ⅰ（2単位）

⑤ 再履修

必修外国語科目が不合格になった場合は、定められた方法により、再履修しなければなりません。

再履修するには、受講予定者自身が履修登録（本登録）の前に「事前登録」をする必要があります。希望の曜講時を選択し登録してください。

※受講者数が均等になるよう調整するため、担当者やクラスを選択できない場合があります。

※履修方法等については、科目ごとに異なりますので注意してください。

○英語の再履修について

英語総合の再履修	再履修科目「英語総合（再）」を、必要単位数（不合格となった科目数）履修してください。評価の最高点は79点となります。 なお、すでに単位を修得した「英語総合（再）」と同じ開講期・曜講時に開講する「英語総合（再）」は、再度履修することはできません。
----------	---

例：2023年度後期月曜日5講時に開講する「英語総合（再）」の単位を修得した場合、次年度以降、後期月曜日5講時に開講する「英語総合（再）」は履修できません。ただし、前期月曜日5講時やその他の曜日に開講する「英語総合（再）」は履修できます。

○初修外国語の再履修について

初修外国語Ⅰ・Ⅱの再履修	不合格となった科目の再履修クラスあるいは正規クラスを選択して履修してください。 ※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。
初修外国語ⅢA～ⅢDの再履修	不合格となった科目あるいは再履修科目（○○○語Ⅲ（再））を履修してください。 例）ドイツ語ⅢCを不合格となった場合、ドイツ語ⅢCあるいはドイツ語Ⅲ（再）を履修。

⑥ 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合（2年次生以降）

各自が選択した履修パターンにある科目以外で、先修条件を満たしている必修外国語科目は履修することができます。履修を希望する場合は、心理学部教務課窓口にある「希望届」を心理学部教務課窓口へ提出してください。ただし、「希望届」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。

修得した単位数はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

- 例：1. フランス語を選択している英語重視型の学生が、「フランス語ⅢA」を履修し修得した単位
2. 初修外国語重視型の学生が「英語総合3(A)」を履修し修得した単位
3. 中国語を選択している英語重視型または初修外国語重視型の学生が、「スペイン語Ⅰ」を履修し修得した単位

⑦ 初修外国語の言語を変更したい場合（2年次生以降）

一旦選択した初修外国語の履修を放棄し、他の言語への変更を特に希望する場合は、心理学部教務課窓口にある「変更理由書」を、心理学部教務課窓口へ提出してください。ただし、「変更理由書」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。変更が認められた場合は、新たに「Ⅰ」から履修してください。

変更前に修得した言語の単位はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

- 例：「ドイツ語Ⅰ」の単位修得後、フランス語に言語変更した場合、先に修得した「ドイツ語Ⅰ」は「フランス語Ⅰ」として読み替えられませんので注意が必要です。

(3) 選択外国語科目の履修

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目と発展科目が開設されています。より高度な運用能力（読む・聴く・話す・書く）の向上を図るとともに、そのことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情についての理解を深めることをめざします。なお、選択外国語科目は教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

【入門科目】開設言語	【発展科目】開設言語
ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語

また、これらの科目の他に、ポルトガル語、ロシア語、ラテン語、ギリシア語、ペルシア語、トルコ語、アラビア語が開設されており、みなさんの多様な興味・関心に応えることができます。

① 開設科目・配当セメスター

	1年次		2年次		3年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター
【入門科目】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 コリア語				コミュニケーションI (2単位)	コミュニケーションII (2単位)	
【発展科目(英語)】	英語セミナーA1 (2単位)	英語セミナーA2 (2単位)	英語セミナーB1 (2単位)	英語セミナーB2 (2単位)	英語セミナーD1 (2単位)	英語セミナーD2 (2単位)
	英語セミナーG1 (2単位)	英語セミナーG2 (2単位)	英語セミナーC1 (2単位)	英語セミナーC2 (2単位)	英語セミナーH1 (2単位)	英語セミナーH2 (2単位)
	英語セミナーI1 (2単位)	英語セミナーI2 (2単位)	英語セミナーE1 (2単位)	英語セミナーE2 (2単位)	英語セミナーJ1 (2単位)	英語セミナーJ2 (2単位)
	英語資格試験セミナー(注1) (2単位/サマーセッション)		英語セミナーF1 (2単位)	英語セミナーF2 (2単位)		
		海外英語研修 (2単位/後期集中)				
【発展科目(初修外国語)】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 コリア語			セミナーI A (2単位)	セミナーI B (2単位)	セミナーII A (2単位)	セミナーII B (2単位)
			セミナーI C (2単位)	セミナーI D (2単位)	セミナーII C (2単位)	セミナーII D (2単位)
			海外中国語研修講座(注2) (2単位/通年集中)			
ポルトガル語 ロシア語			I (2単位)	II (2単位)	III A (2単位)	III B (2単位)
ラテン語 ギリシア語			I (1単位)	II (1単位)		
ペルシア語			I (2単位)	II (2単位)		
トルコ語 アラビア語			I (2単位)	II (2単位)		

(注1)「海外英語研修」(2単位)は1年次生と2年次生のみ履修が可能です。グローバル教育推進センターにおいて申込み手続きを行ってください(Web履修登録不要)。

(注2)「海外中国語研修講座」(2単位)は、現地研修に先立ち、グローバル教育推進センターにおいて申込み手続きを行い(Web履修登録不要)、第1学期(前期)には事前指導が行われるので必ず出席してください。

なお、「海外中国語研修講座」(2単位)は、原則、所属する学部教務課へ申し出ることにより、初修外国語重視型「中国語IIIA~IIID(計4単位)」のなかで、2単位まで充当されます。

② 先修制

選択外国語科目のうち以下の科目には先修制が定められています。

授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位数
ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD	「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
フランス語セミナーⅠA～ⅠD	「フランス語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
中国語セミナーⅠA～ⅠD	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
スペイン語セミナーⅠA～ⅠD	「スペイン語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
コリア語セミナーⅠA～ⅠD	「コリア語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ドイツ語セミナーⅡA～ⅡD	「ドイツ語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
フランス語セミナーⅡA～ⅡD	「フランス語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「フランス語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
中国語セミナーⅡA～ⅡD	「中国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「中国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
スペイン語セミナーⅡA～ⅡD	「スペイン語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「スペイン語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
コリア語セミナーⅡA～ⅡD	「コリア語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「コリア語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
ドイツ語コミュニケーションⅡ	「ドイツ語Ⅰ」(2単位) または 「ドイツ語コミュニケーションⅠ」(2単位)
フランス語コミュニケーションⅡ	「フランス語Ⅰ」(2単位) または 「フランス語コミュニケーションⅠ」(2単位)
中国語コミュニケーションⅡ	「中国語Ⅰ」(2単位) または 「中国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	「スペイン語Ⅰ」(2単位) または 「スペイン語コミュニケーションⅠ」(2単位)
コリア語コミュニケーションⅡ	「コリア語Ⅰ」(2単位) または 「コリア語コミュニケーションⅠ」(2単位)
英語セミナー B1, B2, C1, C2, E1, E2, F1, F2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B)」(計4単位)
英語セミナー D1, D2, H1, H2, J1, J2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B), 4(A), 4(B)」(各1単位) より4科目(計4単位)
海外中国語研修講座	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ポルトガル語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ポルトガル語Ⅰ」(2単位)
ロシア語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ロシア語Ⅰ」(2単位)
ペルシア語Ⅱ	「ペルシア語Ⅰ」(2単位)

4. 教養科目

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目(学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目)の中から各1科目(2単位)以上修得する必要があります。なお、「スポーツ科学系科目」及び2単位を超えて修得した

基幹科目の単位については、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

社会科学系科目

社会科学（社会学、経済学、法学、政治学など）は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

(1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

(2) 開講方式および履修方法

- ① すべての科目には配当セメスターが設定されており、配当セメスターより前のセメスターにおいては履修できません。
- ② 同一科目名の授業の中にも、セメスター型、通年型（通年）の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- ③ 同一科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- ④ 同一の科目名でありながら、「○○A」「○○B」「○○C」とある科目や「○○Ⅰ」「○○Ⅱ」「○○Ⅲ」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「○○A」という科目を修得していなくても、「○○B」の履修は可能です。なお、「○○Ⅰ」「○○Ⅱ」「○○Ⅲ」の「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

※「スポーツ技術学演習」

- ① 「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておかなければなりません。健康診断の日程については履修説明会や本学ホームページにて確認してください。
- ② 各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録

教養科目、選択外国語科目では、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。

したがって、教養科目、選択外国語科目の受講に際しては、年次にかかわらず、予備登録を行う必要があります。

予備登録を行う際は、予備登録できる上限科目数及び学期ごとに定められている履修登録制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください。（一部予備登録が不要な科目もありますので、以下の「(5) 予備登録が不要な科目」(49ページ)を参照してください。）

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合でも、本登録時にWeb履修登録画面に表示されている科目を選択し履修登録（本登録）することができます。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルサイト」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。

予備登録期間については、履修説明会およびポータルサイトで確認してください。

(2) 予備登録できる上限科目数

第1学期（前期）（通年科目含む）	7科目
第2学期（後期）	7科目

なお、4年次生には予備登録科目数の制限はありません。

(3) 予備登録結果発表

予備登録結果はWeb履修登録画面で確認してください。

なお、発表日時（履修登録期間）については、履修説明会ポータルサイトで確認してください。

(4) 予備登録にあたっての注意事項

- ① 第1学期（前期）履修登録は、第1学期（前期）開講科目と通年科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。第2学期（後期）履修登録は第2学期（後期）開講科目を登録します（ただし、4年次生以上は、第1学期（前期）に第2学期（後期）開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。
- ② 各年次について定められている予備登録できる上限科目数および履修登録制限単位の範囲で予備登録をしてください。
- ③ 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

(5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。

「人権論A・B」（1年次配当科目）
 「海外英語研修」（1年次配当科目。1年次生と2年次生のみ履修可）※
 「海外中国語研修講座」（2年次配当科目）※

※「海外英語研修」「海外中国語研修講座」の履修を希望する学生は、グローバル教育推進センターが開催する説明会に参加してください。（開催日等はポータルサイト等で確認してください。）その上で申込み手続きを行ってください。なお「海外中国語研修講座」は「中国語Ⅰ・Ⅱ」の計4単位を修得した学生だけが履修できますので注意してください。

6. 留学生の必修外国語科目（日本語科目等）

留学生は「日本語」および「留学生のための英語入門A」・「留学生のための英語入門B」を必修外国語として12単位履修し修得することを原則とします。

ただし、登録にあたっては必ず心理学部教務課窓口で相談してください。

科目名	単位	配当年次	開講形態
日本語	1	1年次以上	Semester型
留学生のための英語入門A（注1）	1	1年次以上	Semester型
留学生のための英語入門B（注2）	1	1年次以上	Semester型

（注1）学則上の科目名は「英語総合1(B)」です。

（注2）学則上の科目名は「英語総合2(B)」です

7. 教養教育科目開設科目

(1) 「仏教の思想」科目

◎は必修科目 ○は選択科目

授業科目名	単位	配当 Semester						備 考
		1	2	3	4	5	6	
仏教の思想 A	2	◎						2科目(4単位)必修
仏教の思想 B	2		◎					
歎異抄の思想 I	2			○				
歎異抄の思想 II	2				○			

(2) 言語科目

◎は必修外国語科目 ○は選択外国語科目

授業科目名	単位	配当 Semester						備 考
		1	2	3	4	5	6	
英語総合 1 (A)	1	◎						
英語総合 1 (B)	1	◎						
英語総合 2 (A)	1		◎					
英語総合 2 (B)	1		◎					
英語総合 3 (A)	1			◎				
英語総合 3 (B)	1			◎				
英語総合 4 (A)	1				◎			
英語総合 4 (B)	1				◎			
ドイツ語 I	2	◎						
ドイツ語 II	2		◎					
ドイツ語 III A	1			◎				
ドイツ語 III B	1				◎			
ドイツ語 III C	1			◎				
ドイツ語 III D	1				◎			
フランス語 I	2	◎						
フランス語 II	2		◎					
フランス語 III A	1			◎				
フランス語 III B	1				◎			
フランス語 III C	1			◎				
フランス語 III D	1				◎			
中国語 I	2	◎						
中国語 II	2		◎					
中国語 III A	1			◎				
中国語 III B	1				◎			
中国語 III C	1			◎				
中国語 III D	1				◎			
スペイン語 I	2	◎						
スペイン語 II	2		◎					

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
スペイン語Ⅲ A	1			○				
スペイン語Ⅲ B	1				○			
スペイン語Ⅲ C	1			○				
スペイン語Ⅲ D	1				○			
コリア語Ⅰ	2	○						
コリア語Ⅱ	2		○					
コリア語Ⅲ A	1			○				
コリア語Ⅲ B	1				○			
コリア語Ⅲ C	1			○				
コリア語Ⅲ D	1				○			
英語セミナー A 1	2	○						
英語セミナー A 2	2		○					
英語セミナー B 1	2			○				
英語セミナー B 2	2				○			
英語セミナー C 1	2			○				
英語セミナー C 2	2				○			
英語セミナー D 1	2					○		
英語セミナー D 2	2						○	
英語セミナー E 1	2			○				
英語セミナー E 2	2				○			
英語セミナー F 1	2			○				
英語セミナー F 2	2				○			
英語セミナー G 1	2	○						
英語セミナー G 2	2		○					
英語セミナー H 1	2					○		
英語セミナー H 2	2						○	
英語セミナー I 1	2	○						
英語セミナー I 2	2		○					
英語セミナー J 1	2					○		
英語セミナー J 2	2						○	
英語資格試験セミナー	2		○					
海外英語研修	2		○					1年次生と2年次生のみ履修可
ドイツ語セミナーⅠ A	2			○				
ドイツ語セミナーⅠ B	2				○			
ドイツ語セミナーⅠ C	2			○				
ドイツ語セミナーⅠ D	2				○			
ドイツ語セミナーⅡ A	2					○		
ドイツ語セミナーⅡ B	2						○	
ドイツ語セミナーⅡ C	2					○		
ドイツ語セミナーⅡ D	2						○	
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2					○		国際関係コース提供科目

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
フランス語セミナーⅠA	2			○				
フランス語セミナーⅠB	2				○			
フランス語セミナーⅠC	2			○				
フランス語セミナーⅠD	2				○			
フランス語セミナーⅡA	2					○		
フランス語セミナーⅡB	2						○	
フランス語セミナーⅡC	2					○		
フランス語セミナーⅡD	2						○	
フランス語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目
フランス語コミュニケーションⅡ	2					○		国際関係コース提供科目
中国語セミナーⅠA	2			○				
中国語セミナーⅠB	2				○			
中国語セミナーⅠC	2			○				
中国語セミナーⅠD	2				○			
中国語セミナーⅡA	2					○		
中国語セミナーⅡB	2						○	
中国語セミナーⅡC	2					○		
中国語セミナーⅡD	2						○	
中国語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目
中国語コミュニケーションⅡ	2					○		国際関係コース提供科目
スペイン語セミナーⅠA	2			○				
スペイン語セミナーⅠB	2				○			
スペイン語セミナーⅠC	2			○				
スペイン語セミナーⅠD	2				○			
スペイン語セミナーⅡA	2					○		
スペイン語セミナーⅡB	2						○	
スペイン語セミナーⅡC	2					○		
スペイン語セミナーⅡD	2						○	
スペイン語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目
スペイン語コミュニケーションⅡ	2					○		国際関係コース提供科目
コリア語セミナーⅠA	2			○				
コリア語セミナーⅠB	2				○			
コリア語セミナーⅠC	2			○				
コリア語セミナーⅠD	2				○			
コリア語セミナーⅡA	2					○		
コリア語セミナーⅡB	2						○	
コリア語セミナーⅡC	2					○		
コリア語セミナーⅡD	2						○	
コリア語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目
コリア語コミュニケーションⅡ	2					○		国際関係コース提供科目
海外中国語研修講座	2			○				

授業科目名	単位	配当セメスター						備考
		1	2	3	4	5	6	
ポルトガル語Ⅰ	2			○				
ポルトガル語Ⅱ	2				○			
ポルトガル語ⅢA	2					○		
ポルトガル語ⅢB	2						○	
ロシア語Ⅰ	2			○				
ロシア語Ⅱ	2				○			
ロシア語ⅢA	2					○		
ロシア語ⅢB	2						○	
ラテン語Ⅰ	1			○				
ラテン語Ⅱ	1				○			
ギリシア語Ⅰ	1			○				
ギリシア語Ⅱ	1				○			
ペルシア語Ⅰ	2			○				
ペルシア語Ⅱ	2				○			
トルコ語Ⅰ	2			○				
トルコ語Ⅱ	2				○			
アラビア語Ⅰ	2			○				
アラビア語Ⅱ	2				○			

※下記の科目は留学生のみ履修可能です。

授業科目名	単位	配当セメスター						備考
		1	2	3	4	5	6	
日本語	1	◎	◎					
留学生のための英語入門A	1	◎	◎					学則上の科目名（英語総合1（B））
留学生のための英語入門B	1	◎	◎					学則上の科目名（英語総合2（B））

教育課程
教養教育科目

(3) 教養科目

●は選択必修科目として開講する基幹科目 ○は選択科目

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
人文科学系科目	哲学入門	2	●						} <u>1科目（2単位以上）必修</u>
	哲学A	2	●						
	倫理学入門	2	●						
	倫理学A	2	●						
	クリティカル・シンキング	2	●						
	宗教学入門	4	●						
	宗教の世界A	2	●						
	宗教の世界B	2		●					
	中国の思想A	2	●						

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備考	
			1	2	3	4	5	6		
人文科学系科目	中国の思想 B	2		●						
	日本の文学 A	4	●							
	日本の文学 B	4		●						
	アジアの文学 A	2	●							
	アジアの文学 B	2	●							
	西洋の文学 A	2	●							
	西洋の文学 B	2		●						
	文章表現法 A	2	●							
	文章表現法 B	2		●						
	言語と文化	2	●							
	日本の歴史 A	4	●							
	日本の歴史 B	4		●						
	アジアの歴史 A	4	●							
	アジアの歴史 B	4		●						
	西洋の歴史 A	4	●							
	現代世界の歴史 A	2	●							
	現代世界の歴史 B	2		●						
	心理学	4	●							
	心の科学 A	2	●							
	心の科学 B	2		●						
	教育学のすすめ A	2	●							
	教育学のすすめ B	2		●						
	哲学 B	2				○				
	倫理学 B	2				○				
	論理学	2				○				
	芸術の世界 A	2				○				
	芸術の世界 B	2					○			
	日本の文学 C	2				○				
	歴史学入門	2				○				
	日本の文化	4					○			
	アジアの文化	2				○				
	西洋の歴史 B	2				○				
	西洋の歴史 C	2					○			
	応用心理学 A	2				○				
	応用心理学 B	2					○			
	現代社会と教育 A	2				○				
	現代社会と教育 B	2					○			
	教育原論 A	2				○				
	教育原論 B	2					○			
	学習・発達論 A	2				○				
学習・発達論 B	2					○				
人文科学セミナー	4				○					
大学論	2				○					

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
社会科学系科目	日本国憲法	2	●						} <u>1科目（2単位以上）必修</u>
	法学のすすめ	2	●						
	政治学のすすめ	2	●						
	社会学のすすめ	2	●						
	地理学のすすめ	2	●						
	経済学のすすめ	2	●						
	経営学のすすめ	2	●						
	国際学のすすめ	2	●						
	文化人類学のすすめ	2	●						
	社会調査のすすめ	2	●						
	社会統計学のすすめ	2	●						
	人権論A	2	○						
	人権論B	2		○					
	現代社会とメディア	2			○				
	現代社会と福祉	2			○				
	現代社会と法	2			○				
	環境と社会	2			○				
	平和学A	2			○				
	ジェンダー論	2			○				
	国際社会論	2			○				
	現代社会の諸問題	2			○				
	地域論	2			○				
	企業と会計	2			○				
現代社会と労働	2			○					
社会思想史	2			○					
英語で学ぶ日本の社会A	2	○							
英語で学ぶ日本の社会B	2	○							
データサイエンス・AI入門	2	○							
自然科学系科目	数学入門	2	●					} <u>1科目（2単位以上）必修</u>	
	数学への旅	2	●						
	確率・統計入門	2	●						
	宇宙の科学Ⅰ	4	●						
	地球科学のすすめ	2	●						
	物理科学の世界	4	●						
	時間と空間の科学	2	●						
	自然科学史Ⅰ	2	●						
	生物科学のすすめ	4	●						
	生命科学のすすめ	2	●						
	生態学のすすめ	4	●						
	人類学のすすめ	4	●						
	環境学	4	●						
	情報科学入門	2			●				

教育課程
教養教育科目

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
自然科学系科目	微分と積分	4	○						
	行列と行列式	4	○						
	数理統計学	4			○				
	数理と計算	2			○				
	数学の世界	4			○				
	数理と論証	2			○				
	宇宙の科学Ⅱ	2			○				
	地球科学	2		○					
	エネルギー入門	2			○				
	自然科学史Ⅱ	2			○				
	科学論	2			○				
	技術論	2				○			
	平和学B	2			○				
	里山学	2	○						
	生命科学	2		○					
	日本の自然	4	○						
	生命誌	2			○				
	植物の自然誌	2			○				
	動物の自然誌	2			○				
	民族の自然誌	2			○				
	人類進化学	2			○				
人間の生物学Ⅰ	2			○					
人間の生物学Ⅱ	2				○				
自然誌実習	4			○					
野外観察法	2			○					
情報科学Ⅰ	2				○				
情報科学Ⅱ	2					○			
情報科学実習	4		○						
スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2			○				
	現代社会とスポーツ	2		○					
	スポーツ技術学演習	2	○						
	人間とスポーツ	2	○						
	スポーツと人権・平和	2			○				
	スポーツ文化史	2			○				
	スポーツ科学最前線	2	○						
教養教育科目特別講義	2	○						4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目（2単位／4単位）のみ卒業要件単位となる。	
教養教育科目特別講義	4	○							

(注1) 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。
(一部例外あり)

(例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能)

(注2) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

詳細は時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

III 心理学部における学修

心理学部では、さまざまな科目が一定のカリキュラム（教育課程）に沿って展開されていますが、これらの科目は、大きく「教養教育科目」と「専攻科目」の2つに分けることができます。

教養教育科目は、「仏教の思想」科目、「言語科目」、「教養科目」で構成されています。

一方、「専攻科目」とは、心理学部の教育理念・目的に基づき、科目を開講しています。

1. 低年次における専門基礎科目

「専門基礎科目」では、卒業後のキャリアも視野に入れて、初年次から「3つの柱（科目群）」を設定し、心理学の知見に基づいた社会実践をする上で必要となる基礎的な専門教育を行います。

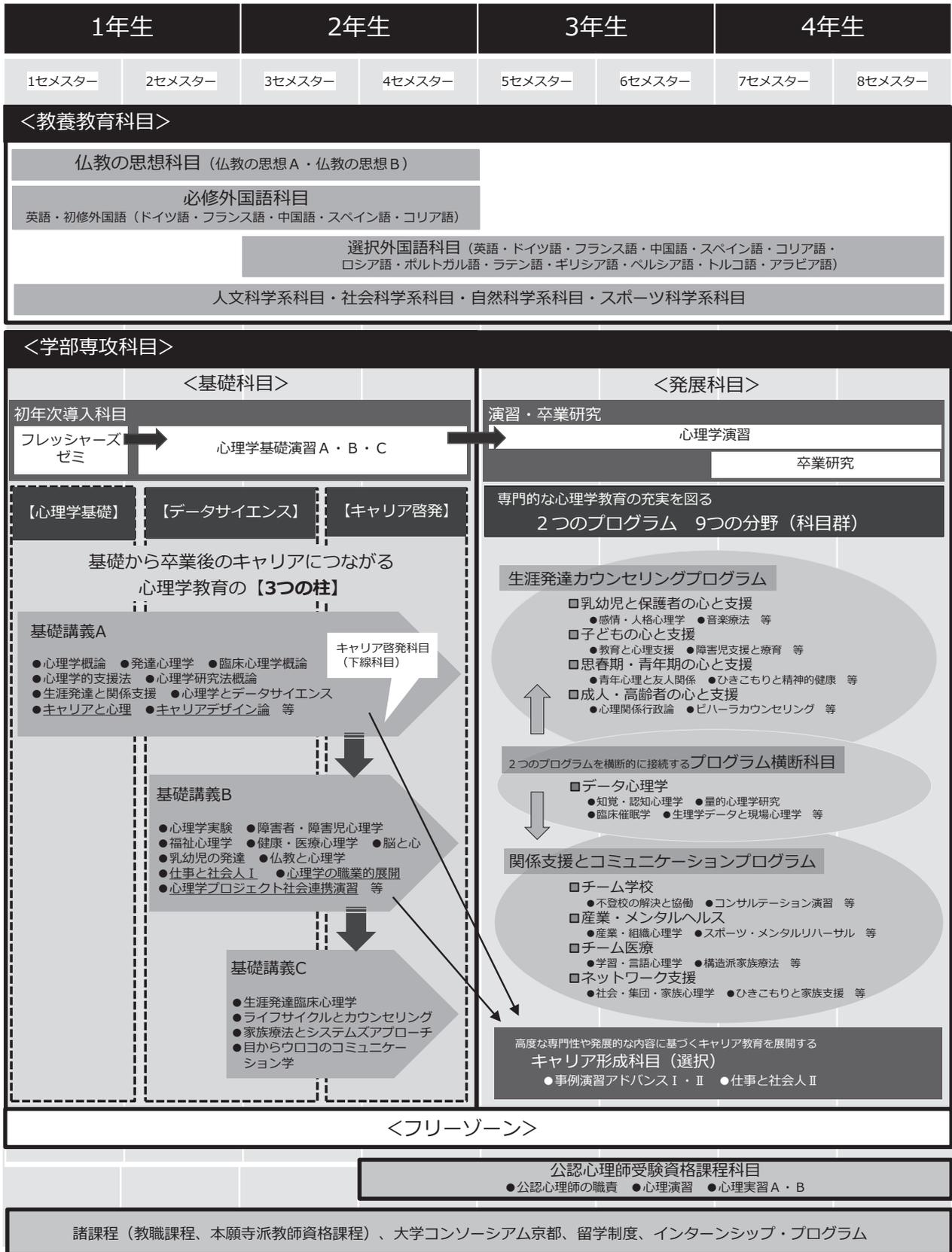
心理学基礎科目	心理学の基礎となる考え方そのものを学ぶとともに、それらがどのように応用心理学と繋がるのかを理解することを目的として開講する科目
データサイエンス科目	これからの社会的介入において求められる「根拠に基づく対応」ができるように、心理的特性そのものをデータとして統計的に処理・分析し、心のありようを科学的に捉えることを目的として開講する科目
キャリア啓発科目	実社会における心理学の応用の実際を学び、専門資格取得の有無にかかわらず、卒業後のキャリアを意識した学修目標の設定を低年次の段階から促すことを目的として開講する科目

2. 高年次における専門発展科目

「専門発展科目」では、次の2つのプログラムに加えてプログラム横断科目を配置し、心理学の専門的な教育の充実を図ります。

プログラム		9つの分野
生涯発達カウンセリングプログラム	生涯発達の観点から発達段階に応じた「個人の心」に寄り添い、自らが「気づく」支援のあり方にアプローチするプログラム。	①乳幼児と保護者の心と支援 ②子どもの心と支援 ③思春期・青年期の心と支援 ④成人・高齢者の心と支援
関係支援とコミュニケーションプログラム	家族関係、知人・交友関係、組織での人間関係などを理解するために「多様なコミュニケーションの解釈」を学び、社会で共に生きる人間の繋がりにアプローチするプログラム。	⑤チーム医療 ⑥チーム学校 ⑦ネットワーク支援 ⑧産業・メンタルヘルス
プログラム横断科目	2つのプログラムを横断的に接続するプログラム。心理学を科学的なものとして理解し、心の動きや行動をデータとして処理・分析する方法を学び、セルフチェックやメンタルトレーニング等に活用されている最新の対応技術を学ぶプログラム。	⑨データ心理学

3. 4年間の学修プログラム



教育課程
学部専攻科目

IV 心理学部専攻科目の教育目的および履修方法

心理学部では、心理学の専門的な学びの基礎（大学での学びの基礎となる初年次教育を含む）を身につけることを目的とする専門基礎科目として、1年次・2年次（第1 Semesterから第4 Semester）に演習科目及び講義科目を配置しています。3年次・4年次では、低年次での専門基礎科目及び教養教育科目における学びを通じて社会実践の方向性のある程度意識した上で、2つのプログラム（+プログラム横断科目）及び9つの分野を主体的に選択して履修することで、分野に応じたより専門的な学修を進め、卒業後のキャリアへと繋げていけるよう、教育課程を編成しています。

1. 学修課程上の区分

区分	科目区分の特徴及び科目
演習科目	<ul style="list-style-type: none"> 「フレッシューズゼミ」を第1 Semesterに配置し、アカデミックスキルの修得と学修活動を中心とした大学生活への順応、及び学修意欲の喚起などを目的としています。 「心理学基礎演習A、B、C」を第2 Semesterから第4 Semesterに配置し、第5 Semester以降に開講する「心理学演習」等の専門発展科目における学修の基盤となる「心理学の学びの基礎」の修得を目指します。 「心理学演習」を第5 Semesterから第8 Semesterに、「卒業研究」を第7 Semester・第8 Semesterにそれぞれ配置し、学生自身が関心に応じて演習を選択し、各分野に関連した研究課題を設定した上で、その課題の本質を理解した上で解決に取り組むことを目指します。
基礎講義 A	<ul style="list-style-type: none"> 3つの柱（心理学基礎、データサイエンス、キャリア啓発）に関する必修科目によって構成し、第1 Semesterから第4 Semesterに配置します。 心理学基礎科目としては、初学者向けの概説科目である「発達心理学」「臨床心理学概論」などを開設し、その上で実践的な心理学に不可欠な「心理学的支援法」「心理学研究法概論」「心理学統計法概論」を開講します。 データサイエンス科目として、「心理学とデータサイエンス」などを開講します。 キャリア啓発科目として、「キャリアと心理」「キャリアデザイン論」を開講します。 心理学基礎科目のなかで開講する「生涯発達と関係支援」は、第3 Semester以降に順次専門性を高めて学修していくことになる2つのプログラム及び9つの分野のそれぞれの特徴を学ぶ科目として位置づけます。
基礎講義 B	<ul style="list-style-type: none"> 3つの柱に関する選択科目によって構成し、第2 Semesterから第4 Semesterに配置します。 心理学基礎科目としては、2つのプログラム（+プログラム横断科目）の基礎となる科目を開講します（生涯発達カウンセリングプログラム関連：7科目、関係支援とコミュニケーションプログラム関連：6科目、プログラム横断科目関連：2科目）。 データサイエンス科目を2科目、キャリア啓発科目を3科目開講します。
基礎講義 C	<ul style="list-style-type: none"> 3つの柱のうちの心理学基礎科目のみで構成し、第3 Semester・第4 Semesterに配置し、2つのプログラムに関する基礎的な科目を開講します。 「生涯発達カウンセリングプログラム」に関連する科目としては、「生涯発達臨床心理学」と「ライフサイクルとカウンセリング」を、「関係支援とコミュニケーションプログラム」に関連する科目としては、「家族療法とシステムズアプローチ」と「目からウロコのコミュニケーション学」をそれぞれ開講します。 全科目を選択必修とすることで、第5 Semester以降、学生が自らプログラムや分野を選択して専門的な学びを深めていく上で重要となる点を総括的に学修する機会とします。

プログラム科目	<ul style="list-style-type: none"> ・演習科目において研究課題の解決に取り組む上で必要となる、専門的な学びの深化を図るため、「プログラム科目」を配置し、9つの分野ごとの科目群及びキャリア形成科目を開講します。 ・分野ごとの科目群は、各分野の専門性を深めるために講義系の科目を幅広く開講するとともに、実践的な知識や手法の修得のために演習・実習系の科目も開講します。 ・キャリア形成科目として、「仕事と社会人II」（第5セメスター）、「事例演習アドバンスI」（第7セメスター）及び「事例演習アドバンスII」（第8セメスター）を開講します。 ・「仕事と社会人II」では、「仕事と社会人I」（専門基礎科目）において学んだビジネスにおけるコミュニケーションやロジカルシンキング等を発展的に学修します。 ・大学院進学（心理専門職）を想定した「事例演習アドバンスI」及び「事例演習アドバンスII」では、大学院生への実習指導である「心理相談のスーパーバイズ」に陪席し、カウンセリングについて実践的に学修します。
---------	---

2. 履修方法

教養教育科目から36単位以上【必修8単位（「仏教の思想」科目：4単位／必修外国語科目：4単位）、選択必修14単位（選択外国語科目：8単位／人文科学系科目：2単位／社会科学系科目：2単位／自然科学系科目：2単位）、選択科目14単位】、心理学部専攻科目から70単位以上（必修42単位、選択必修4単位、選択24単位）を修得し、合計124単位以上修得することとします。

教養教育科目①				心理学部専攻科目②				フリーゾーン③	①+②+③							
必修	選択必修 ※1			選択外国語科目 (英語・初修外国語)	選択外国語科目	必修	選択必修	選択								
仏教の思想 A 仏教の思想 B	人文科学系科目	社会科学系科目	自然科学系科目			2単位	2単位	2単位	14単位	4単位	8単位	8単位	22単位	12単位	4単位	基礎講義 B プログラム科目 共通選択科目
4単位	6単位以上			14単位以上	言語科目 12単位以上	46単位			24単位以上			18単位以上		合計124単位		

→：卒業要件単位を超えて修得した単位の流れを示しています。

※1 「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目の中から各1科目（2単位以上）修得してください。各分野において2単位を超えて修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定されます。

※2 フリーゾーンでは、卒業要件単位数を超えて修得した教養教育科目・心理学部専攻科目の合計単位を認定します。

3. 開設科目一覧

(1) 心理学部専攻科目一覧<配当セメスター順>

セメスター	区分	分類	■:必修 ◆:選必	科目名	単位	グレイド	9つの分野									備考	
							ネットワーク	チーム医療	産業・メンタルヘルス	チーム学校	データ心理学	思春期・青年期	子ども	成人・高齢者	乳幼児		
1	初年次科目		■	フレッシュャーズゼミ	2	100											
1	基礎講義A	データサイエンス	■	心理学概論	2	100											
1	基礎講義A	心理学基礎	■	発達心理学	2	100											
1	基礎講義A	心理学基礎	■	臨床心理学概論	2	100											
1	基礎講義A	キャリア啓発	■	キャリアと心理	2	100											
2	導入科目		■	心理学基礎演習A	2	200											
2	基礎講義A	心理学基礎	■	心理学的支援法	2	200											
2	基礎講義A	心理学基礎	■	生涯発達と関係支援	2	200											
2	基礎講義A	キャリア啓発	■	キャリアデザイン論	2	200											
2	基礎講義B	心理学基礎		人体の構造と機能及び疾病	2	200											
2	基礎講義B	心理学基礎		健康・医療心理学	2	200											
3	導入科目		■	心理学基礎演習B	2	300											
3	基礎講義A	データサイエンス	■	心理学研究法概論	2	300											
3	基礎講義A	データサイエンス	■	心理学統計法概論	2	300											
3	基礎講義A	データサイエンス	■	心理学とデータサイエンス	2	300											
3	基礎講義B	心理学基礎		障害者・障害児心理学	2	300											
3	基礎講義B	心理学基礎		教育・学校心理学	2	300											
3	基礎講義B	心理学基礎		乳幼児の発達	2	300											
3	基礎講義B	心理学基礎		児童思春期精神医学	2	300											
3	基礎講義B	心理学基礎		コミュニティとシステム支援	2	300											
3	基礎講義B	心理学基礎		ストレスマネジメント	2	300											
3	基礎講義B	キャリア啓発		心理学の職業的展開	2	300											
3	基礎講義C	心理学基礎	◆	生涯発達臨床心理学	2	300											※選択必修科目
3	基礎講義C	心理学基礎	◆	家族療法とシステムズアプローチ	2	300											※選択必修科目
4	導入科目		■	心理学基礎演習C	2	300											
4	基礎講義A	心理学基礎	■	心理的アセスメントI	2	300											
4	基礎講義B	データサイエンス		心理学実験	1	300											
4	基礎講義B	データサイエンス		神経・生理心理学	2	300											
4	基礎講義B	心理学基礎		福祉心理学	2	300											
4	基礎講義B	心理学基礎		脳と心	2	300											
4	基礎講義B	心理学基礎		子どもの心理療法	2	300											
4	基礎講義B	心理学基礎		高齢者の心理と福祉	2	300											
4	基礎講義B	心理学基礎		仏教と心理学	2	300											
4	基礎講義B	心理学基礎		チーム医療	2	300											
4	基礎講義B	心理学基礎		チーム学校とシステム論	2	300											
4	基礎講義B	キャリア啓発		仕事と社会人I	2	300											
4	基礎講義B	キャリア啓発		心理学プロジェクト社会連携演習	2	300											

セ メ ス タ ー	区 分	分 類	■:必修 ◆:選必	科目名	単 位	グ レ イ ド	9つの分野									備 考		
							ネ ット ワー ク	チ ーム 医 療	産 業・ メン タル ヘル ス	チ ーム 学 校	デ ータ 心 理 学	思 春 期・ 青年 期	子 ど も	成 人・ 高 齢 者	乳 幼 児			
4	基礎講義C	心理学基礎	◆	ライフサイクルとカウンセリング	2	300												※選択必修科目
4	基礎講義C	心理学基礎	◆	目からウロコのコミュニケーション学	2	300												※選択必修科目
5	演習科目		■	心理学演習	2	400												
5	プログラム科目	プログラム横断科目		知覚・認知心理学	2	400				○								
5	プログラム科目	生涯発達		精神疾患とその治療	2	400				○								
5	プログラム科目	生涯発達		感情・人格心理学	2	400										○		
5	プログラム科目	生涯発達		心理関係行政論	2	400										○		
5	プログラム科目	関係支援		司法・犯罪心理学	2	400	○											
5	プログラム科目	関係支援		産業・組織心理学	2	400		○										
5	プログラム科目	プログラム横断科目		量的心理学研究	2	400				○								
5	プログラム科目	プログラム横断科目		質的心理学研究	2	400				○								
5	プログラム科目	プログラム横断科目		生理学データと現場心理学（基礎）	2	400				○								
5	プログラム科目	プログラム横断科目		臨床催眠学	2	400				○								
5	プログラム科目	生涯発達		子育てとソーシャルサポート	2	400										○		
5	プログラム科目	生涯発達		音楽療法	2	400										○		
5	プログラム科目	生涯発達		ダンスセラピー	2	400						○						
5	プログラム科目	生涯発達		乳幼児の理解と支援実習	2	400										○		
5	プログラム科目	生涯発達		教育と心理支援	2	400						○						
5	プログラム科目	生涯発達		発達障害のアセスメント	2	400						○						
5	プログラム科目	生涯発達		心理的アセスメントII	2	400						○						
5	プログラム科目	生涯発達		不登校・いじめとスクールカウンセリング	2	400					○							
5	プログラム科目	生涯発達		青年心理と友人関係	2	400					○							
5	プログラム科目	生涯発達		思春期とジェンダー心理学	2	400					○							
5	プログラム科目	生涯発達		大人の発達障害	2	400					○							
5	プログラム科目	生涯発達		思春期の子ども理解と支援実習I	2	400					○							
5	プログラム科目	生涯発達		中年期の危機とうつ	2	400										○		
5	プログラム科目	関係支援		医療におけるシステムズアプローチ	2	400	○											
5	プログラム科目	関係支援		緩和ケアとこころの治療力	2	400	○											
5	プログラム科目	関係支援		家族療法とコミュニケーション・アプローチ	2	400	○											
5	プログラム科目	関係支援		学校システムにおける精神疾患と家族	2	400				○								
5	プログラム科目	関係支援		不登校の解決と協働	2	400				○								
5	プログラム科目	関係支援		発達障がいと家族	2	400	○											
5	プログラム科目	関係支援		ひきこもりと家族支援	2	400	○											
5	プログラム科目	関係支援		虐待と家族支援	2	400	○											
5	プログラム科目	関係支援		ポジティブ心理学	2	400			○									
5	プログラム科目	関係支援		コーチング心理学	2	400			○									
5	プログラム科目	キャリア形成		仕事と社会人II	2	400												
6	演習科目		■	心理学演習	2	400												
6	プログラム科目	関係支援		学習・言語心理学	2	400	○											
6	プログラム科目	関係支援		社会・集団・家族心理学	2	400	○											
6	プログラム科目	プログラム横断科目		生理学データと現場心理学（応用）	2	400				○								

教育課程
学部専攻科目

セ メ ス タ ー	区 分	分 類	■:必修 ◆:選必	科 目 名	単 位	グ レ イ ド	9つの分野									備 考			
							ネ ット ワー ク	チ ーム 医 療	産 業・ メン タル ヘル ス	チ ーム 学 校	テ ィ タ 心 理 学	思 春 期・ 青年 期	子 ど も	成 人・ 高 齢 者	乳 幼 児				
6	プログラム科目	生涯発達		コミュニティ・アプローチ	2	400												○	
6	プログラム科目	生涯発達		愛着障害と親子関係	2	400												○	
6	プログラム科目	生涯発達		保育の心理学	2	400												○	
6	プログラム科目	生涯発達		障害児支援と療育	2	400							○						
6	プログラム科目	生涯発達		学童期の遊びと対人関係	2	400							○						
6	プログラム科目	生涯発達		発達障害と応用行動分析	2	400							○						
6	プログラム科目	生涯発達		思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ	2	400							○						
6	プログラム科目	生涯発達		フォーカシングと体験過程療法	2	400							○						
6	プログラム科目	生涯発達		ひきこもりと精神的健康	2	400							○						
6	プログラム科目	生涯発達		認知行動療法	2	400							○						
6	プログラム科目	生涯発達		エンカウンターグループと回想法	2	400												○	
6	プログラム科目	生涯発達		ビハーラカウンセリング	2	400												○	
6	プログラム科目	生涯発達		死生観教育と心理療法	2	400												○	
6	プログラム科目	生涯発達		認知症の心と家族支援	2	400												○	
6	プログラム科目	生涯発達		高齢者の理解と支援実習	2	400												○	
6	プログラム科目	生涯発達		人格心理学と精神力動論	2	400								○					
6	プログラム科目	関係支援		コンサルテーション・リエゾン精神医学	2	400		○											
6	プログラム科目	関係支援		構造派家族療法	2	400		○											
6	プログラム科目	関係支援		保護者支援とチーム学校	2	400				○									
6	プログラム科目	関係支援		コンサルテーション演習	2	400				○									
6	プログラム科目	関係支援		特別支援とシステムズアプローチ	2	400				○									
6	プログラム科目	関係支援		ブリーフセラピーとソリューション	2	400				○									
6	プログラム科目	関係支援		非行と家族支援	2	400	○												
6	プログラム科目	関係支援		オープン・ダイアログ演習	2	400	○												
6	プログラム科目	関係支援		キャリアカウンセリング	2	400			○										
6	プログラム科目	関係支援		スポーツ心理学	2	400			○										
6	プログラム科目	関係支援		スポーツ・メンタルリハーサル	2	400			○										
6	プログラム科目	関係支援		マインドフルネス・ヨーガ	2	400			○										
7	演習科目		■	心理学演習	2	500													
7・8	卒業研究	研究演習群	■	卒業研究	4	500													
7	プログラム科目	キャリア形成		事例演習アドバンスI	2	500													
8	演習科目		■	心理学演習	2	500													
8	プログラム科目	キャリア形成		事例演習アドバンスII	2	500													

※選択必修科目4科目のうち、2科目4単位を履修すること。

(注意)

年度により、開講されない科目があります。開設科目一覧に掲載されていても、時間割表に掲載されていない場合は、その年度は不開講です。

また、科目の開講期も変更となる場合もあります。時間割表をよく確認してください。



(2) 学舎別 開講科目一覧

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	
初年次科目	アカデミックスキルの修得、専門発展科目における学修の基礎となる「心理学の学びの基礎」修得を目指す科目を開講する。	[100] フレッシュヤーズゼミ (2)				
導入科目			[200] 心理学基礎演習A (2)	[300] 心理学基礎演習B (2)	[300] 心理学基礎演習C (2)	
演習科目	学生自身が、関心に応じた課題の本質を理解した上で解決に取り組むことを目指し、「心理学演習」「卒業研究」を開講する。					
卒業研究						
基礎講義A	必修科目によって構成し、基礎的・全般的な知識や思考を修得するため、初学者向けの概説科目を開設し、その上で実践的な心理学に不可欠な科目を開講する。	[100] 心理学概論 (2)	[200] 心理学的支援法 (2)	[300] 心理学研究法概論 (2)	[300] 心理的アセスメント I (2)	
		[100] 発達心理学 (2)	[200] 生涯発達と関係支援 (2)	[300] 心理学統計法概論 (2)		
		[100] 臨床心理学概論 (2)	[200] キャリアデザイン論 (2)	[300] 心理学とデータサイエンス (2)		
		[100] キャリアと心理 (2)				
基礎講義B ★	基礎的な知識を踏まえ、さらに深化をはかるため、順次、専門性を高めて学修していくことになる2つのプログラム及び9つの分野に関する心理学の基礎となる科目を開講する。		[200] 人体の構造と機能及び疾病 (2)	[300] 障害者・障害児心理学 (2)	[300] 心理学実験 (1)	
			[200] 健康・医療心理学 (2)	[300] 教育・学校心理学 (2)	[300] 神経・生理心理学 (2)	
				[300] 乳幼児の発達 (2)	[300] 福祉心理学 (2)	
				[300] 児童思春期精神医学 (2)	[300] 脳と心 (2)	
				[300] コミュニティとシステム支援 (2)	[300] 子どもの心理療法 (2)	
				[300] ストレスマネジメント (2)	[300] 高齢者の心理と福祉 (2)	
				[300] 心理学の職業的展開 (2)	[300] 仏教と心理学 (2)	
					[300] チーム医療 (2)	
					[300] チーム学校とシステム論 (2)	
					[300] 仕事と社会人 I (2)	
基礎講義C	キャリアデザインに沿った学修を深める上で重要となる内容を総括的に学修する科目を開講する。			[300] 生涯発達臨床心理学 (2)	[300] ライフサイクルとカウンセリング (2)	
				[300] 家族療法とシステムズアプローチ (2)	[300] 目からウロコのコミュニケーション学 (2)	
プログラム科目 ★	演習科目において研究課題の解決に取り組む上で必要となる、専門的な学びの深化を図るため、「プログラム科目」を配置し、9つの分野ごとの科目群及びキャリア形成科目を開講する。分野ごとの科目群は、各分野の専門性を深めるために講義系の科目を幅広く開講するとともに、実践的な知識や手法の修得のために演習・実習系の科目を開講する。					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

教育課程
学部専攻科目



【グレードナンバー】科目名 (単位数)

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
				2単位必修
				3科目6単位必修
【400】心理学演習 (2)	【400】心理学演習 (2)	【500】心理学演習 (2)	【500】心理学演習 (2)	12単位必修
		【500】卒業研究 (4)		
				22単位必修
				★から24単位選択
				4単位選択必修
【400】知覚・認知心理学 (2)	【400】学習・言語心理学 (2)	【500】事例演習アドバンスⅠ (2)	【500】事例演習アドバンスⅡ (2)	★から24単位選択
【400】精神疾患とその治療 (2)	【400】社会・集団・家族心理学 (2)			
【400】感情・人格心理学 (2)	【400】生理学データと現場心理学(応用) (2)			
【400】心理関係行政論 (2)	【400】コミュニティ・アプローチ (2)			
【400】司法・犯罪心理学 (2)	【400】愛着障がいと親子関係 (2)			
【400】産業・組織心理学 (2)	【400】保育の心理学 (2)			
【400】量的心理学研究 (2)	【400】障害児支援と療育 (2)			
【400】質的心理学研究 (2)	【400】学童期の遊びと対人関係 (2)			
【400】生理学データと現場心理学(基礎) (2)	【400】発達障がいと応用行動分析 (2)			
【400】臨床催眠学 (2)	【400】思春期の子どもの理解と支援実習Ⅱ (2)			
【400】子育てとソーシャルサポート (2)	【400】フォーカシングと体験過程療法 (2)			
【400】音楽療法 (2)	【400】ひきこもりと精神的健康 (2)			
【400】ダンスセラピー (2)	【400】認知行動療法 (2)			
【400】乳幼児の理解と支援実習 (2)	【400】エンカウンターグループと回想法 (2)			
【400】教育と心理支援 (2)	【400】ビハラーカウンセリング (2)			
【400】発達障害のアセスメント (2)	【400】死生観教育と心理療法 (2)			
【400】心理的アセスメントⅡ (2)	【400】認知症の心と家族支援 (2)			
【400】不登校・いじめとスクールカウンセリング (2)	【400】高齢者の理解と支援実習 (2)			
【400】青年心理と友人関係 (2)	【400】人格心理学と精神力動論 (2)			
【400】思春期とジェンダー心理学 (2)	【400】コンサルテーション・リエゾン精神医学 (2)			
【400】大人の発達障害 (2)	【400】構造派家族療法 (2)			
【400】思春期の子どもの理解と支援実習Ⅰ (2)	【400】保護者支援とチーム学校 (2)			
【400】中年期の危機とうつ (2)	【400】コンサルテーション演習 (2)			
【400】医療におけるシステムズアプローチ (2)	【400】特別支援とシステムズアプローチ (2)			
【400】緩和ケアとこころの治癒力 (2)	【400】ブリーフセラピーとソリューション (2)			
【400】家族療法とコミュニケーション・アプローチ (2)	【400】非行と家族支援 (2)			
【400】学校システムにおける精神疾患と家族 (2)	【400】オープン・ダイアログ演習 (2)			
【400】不登校の解決と協働 (2)	【400】キャリアカウンセリング (2)			
【400】発達障がいと家族 (2)	【400】スポーツ心理学 (2)			
【400】ひきこもりと家族支援 (2)	【400】スポーツ・メンタルリハーサル (2)			
【400】虐待と家族支援 (2)	【400】マインドフルネス・ヨーガ (2)			
【400】ポジティブ心理学 (2)				
【400】コーチング心理学 (2)				
【400】仕事と社会人Ⅱ (2)				

教育課程
学部専攻科目

(3) プログラム科目一覧

プログラム名	分野	科目名
生涯発達カウンセリング プログラム	乳幼児と保護者の心と支援	感情・人格心理学
		子育てとソーシャルサポート
		音楽療法
		乳幼児の理解と支援実習
		コミュニティ・アプローチ
		愛着障害と親子関係
	子どもの心と支援	保育の心理学
		ダンスセラピー
		教育と心理支援
		発達障害のアセスメント
		心理的アセスメントII
		障害児支援と療育
		学童期の遊びと対人関係
	思春期・青年期の心と支援	発達障害と応用行動分析
		精神疾患とその治療
		不登校・いじめとスクールカウンセリング
青年心理と友人関係		
思春期とジェンダー心理学		
大人の発達障害		
思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ		
思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ		
フォーカシングと体験過程療法		
ひきこもりと精神的健康		
成人・高齢者の心と支援	認知行動療法	
	人格心理学と精神力動論	
	心理関係行政論	
	中年期の危機とうつ	
	エンカウンターグループと回想法	
	ビハラーカウンセリング	
	死生観教育と心理療法	
	認知症の心と家族支援	
高齢者の理解と支援実習		
関係支援とコミュニケーション プログラム	チーム学校	学校システムにおける精神疾患と家族
		不登校の解決と協働
		保護者支援とチーム学校
		コンサルテーション演習
		特別支援とシステムズアプローチ
	産業・メンタルヘルス	ブリーフセラピーとソリューション
		産業・組織心理学
		ポジティブ心理学
		コーチング心理学
		キャリアカウンセリング
		スポーツ心理学
		スポーツ・メンタルリハーサル
	マインドフルネス・ヨーガ	
	チーム医療	医療におけるシステムズアプローチ
		緩和ケアとこころの治癒力
		家族療法とコミュニケーション・アプローチ
学習・言語心理学		
コンサルテーション・リエゾン精神医学		
ネットワーク支援	構造派家族療法	
	司法・犯罪心理学	
	発達障がいと家族	
	ひきこもりと家族支援	
	虐待と家族支援	
	社会・集団・家族心理学	
	非行と家族支援	
オープン・ダイアログ演習		
プログラム横断科目	データ心理学	知覚・認知心理学
		量的心理学研究
		質的心理学研究
		生理学データと現場心理学（基礎）
		臨床催眠学
生理学データと現場心理学（応用）		

教育課程

学部専攻科目

4. キャリア教育

心理学部は、卒業後のキャリアも視野に入れ、初年次に「キャリア啓発科目」、高年次に「キャリア形成科目」を配置し、卒業まで一貫したキャリア教育を展開します。現場で活躍する社会人などを招いた講義等を展開し、実社会での心理学の応用を理解する機会を積極的に提供します。

(1) キャリア啓発科目

科目名	講義等の内容
キャリアと心理	大学での学びを大学卒業後の進路選択や職業選択、長期的な人生設計に役立てられるように、講義やディスカッションを通して考える機会とします。
キャリアデザイン論	将来社会に参加することについて見通しをもつことと自分自身のキャリアデザイン力の涵養を目指します。
心理学の職業的展開	社会の中で心理学がどのように活用されているのか、また心理学にどのような期待が寄せられているのかを学びます。
仕事と社会人Ⅰ	「働く」ということはどういうことなのか、企業等と連携してビジネスにおけるコミュニケーションやビジネスマナー、ロジカルシンキング等について実践的に学びます。特に、企業と顧客におけるコミュニケーションに焦点をあてます。
心理学プロジェクト 社会連携演習	地域社会等の諸課題について、心理学的アプローチを活かした協働的能動学習を通じて解決策を実践的に探究します。

(2) キャリア形成科目

科目名	講義等の内容
仕事と社会人Ⅱ	「働く」ということはどういうことなのか、企業等と連携してビジネスにおけるコミュニケーションやビジネスマナー、ロジカルシンキング等について実践的に学びます。特に、職場内で求められるスキルに焦点をあてます。 (公務員や企業等への就職を想定した科目)
事例演習アドバンス Ⅰ・Ⅱ	大学院生の担当しているケースのスーパーヴィジョン（指導）への陪席を通し、カウンセリングについて理解する機会をもちます。 (大学院進学（心理専門職）を想定した科目)

5. 卒業研究

3年次と4年次にて履修する「心理学演習」とセットで4年次に「卒業研究」を必修科目として履修します。この科目は、心理学にかかわる領域において、研究テーマを深め、研究方法の手続きや調査結果の整理の仕方、考察の書き方等を明らかにし、4年間の集大成である卒業研究の作成を目標とします。最終的に「卒業研究」を提出し、卒業研究発表会を実施します。

(1) 「心理学演習」

<第5、第6 Semester>

1年次、2年次の「心理学基礎演習」で学修した内容を踏まえ、4年次で履修する「心理学演習」につながる実践的な学修を行います。

<第7、第8 Semester>

3年次「心理学演習」での学修をさらに深めるとともに、その集大成として卒業研究を制作するために必要な心理学領域への専門性を高めます。

(2) 「卒業研究」について

学士課程における集大成として、論文等の成果物の評価と発表（試問合）によって、単位を認定します。

<スケジュール>

12月中旬 卒業研究に係る「概要」もしくは「抄録」を提出

1月中旬 卒業研究発表会

※提出内容・提出方法等の詳細については、「心理学演習」授業内及びポータルサイトにて周知します。

6. 国家資格「公認心理師」

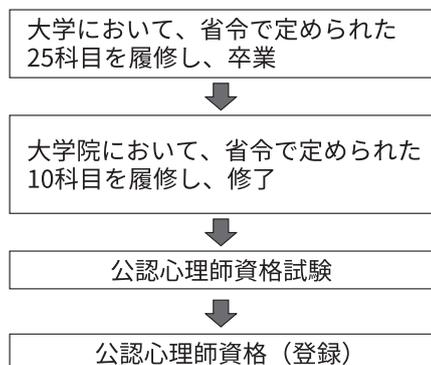
「公認心理師」資格は2017年9月に施行された、心理学の国家資格です。

(1) 「公認心理師」を取得するには

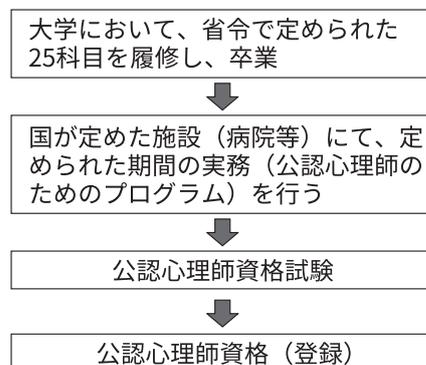
国家資格である「公認心理師」を所得するには、国（省令）が定めた科目を大学ならびに大学院で履修した（単位を取得した）上で、公認心理師資格試験を受験、合格しなければいけません（図1参照）。

ただし、大学卒業後、国が認めた施設（病院等）にて、実務（公認心理師のためのプログラム）を行うことで、公認心理師資格試験を受けることもできます（図2参照）。

【図1 公認心理師取得までのコース】



【図2 実務による公認心理師取得までのコース】



(2) 龍谷大学における公認心理師受験資格取得のための科目

省令に定める科目	心理学部開講科目名	単位
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2
心理学概論	心理学概論	2
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2
心理学研究法	心理学研究法概論	2
心理学統計法	心理学統計法概論	2
心理学実験	心理学実験	1
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2
発達心理学	発達心理学	2
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2
心理的アセスメント	心理的アセスメントⅠ	2
心理学的支援法	心理学的支援法	2
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2
福祉心理学	福祉心理学	2
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2
関係行政論	心理関係行政論	2
心理演習	心理演習	2
心理実習（80時間以上）	心理実習A、心理実習B	各2

(3) 「心理実習A・B」について

3年次に「心理実習A」、4年次に「心理実習B」が開講されます。

これは、80時間を超える学外での実習です。このカリキュラムは受講人数の制限がかかるため、本カリキュラムを受講するためには、2年次に開講予定の「公認心理師の職責」ならびに3年次開講予定の「心理演習」の単位を取得することが必須条件となります。また、「心理関係行政論」の単位を取得済みであることも望ましいです。その他、履修登録に際し、選考が行われることもありますので注意してください。

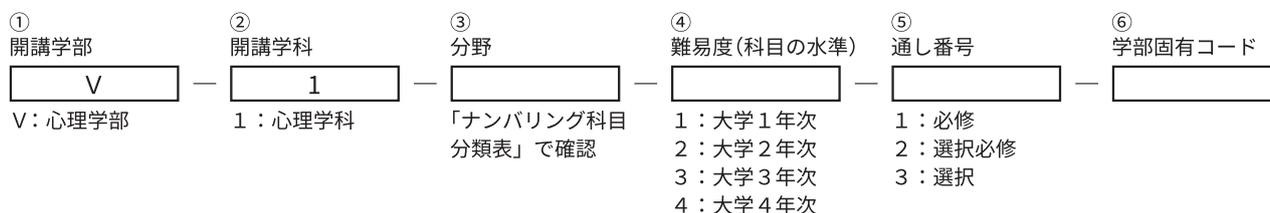
※ 「心理実習A」と「心理実習B」は、両方修得することが必須です。

※ 「心理実習A・B」ではガイダンスを行います。ガイダンスの受講は必須です。ガイダンス開催日時はポータルサイト等で周知する予定です。各自で意識して、大学からの情報を収集してください。

7. 科目ナンバリング

心理学部開講科目のナンバリングコードは次のとおりです。

<心理学部におけるナンバリングコード体系>



<ナンバリング科目分離・略語表>

系 (Category)	分野 (Area)	分科 (Discipline)	略号	細目名 (Research Field)
—	—	—	SEM	演習 Seminar
人文社会系 Humanities and Social Sciences	社会科学 Social sciences	心理学 Psychology	SOP	社会心理学 Social psychology
			EDP	教育心理学 Educational psychology
			CLI	臨床心理学 Clinical psychology
			EXP	実験心理学 Experimental psychology

※参考：科学研究費助成事業「系・分野・分科・細目表キーワード一覧」（日本学術振興会）

※「演習」については、龍谷大学心理学部教務課として科目分類（略号）を設定する。

科目名	年次	単位	科目ナンバリング
フレッシューズゼミ	1	2	V-1-SEM-1-1
心理学基礎演習A	1	2	V-1-SEM-1-1
心理学基礎演習B	2	2	V-1-SEM-2-1
心理学基礎演習C	2	2	V-1-SEM-2-1
心理学演習	3	2	V-1-SEM-3-1
心理学演習	4	2	V-1-SEM-4-1
卒業研究	4	4	V-1-SEM-4-1
心理学概論	1	2	V-1-SOP-1-1
発達心理学	1	2	V-1-EDP-1-1
臨床心理学概論	1	2	V-1-CLI-1-1
心理学的支援法	1	2	V-1-CLI-1-1
心理学研究法概論	2	2	V-1-EXP-2-1
心理学統計法概論	2	2	V-1-EXP-2-1
心理的アセスメントⅠ	2	2	V-1-CLI-1-1
生涯発達と関係支援	1	2	V-1-EDP-1-1
心理学とデータサイエンス	2	2	V-1-EXP-2-1
キャリアと心理	1	2	V-1-SOP-1-1
キャリアデザイン論	1	2	V-1-SOP-1-1

科目名	年次	単位	科目ナンバリング
人体の構造と機能及び疾病	1	2	V-1-CLI-1-3
心理学実験	2	1	V-1-EXP-2-3
神経・生理心理学	2	2	V-1-EXP-2-3
障害者・障害児心理学	2	2	V-1-EXP-2-3
福祉心理学	2	2	V-1-CLI-2-3
健康・医療心理学	1	2	V-1-CLI-1-3
教育・学校心理学	2	2	V-1-EDP-2-3
脳と心	2	2	V-1-EXP-2-3
乳幼児の発達	2	2	V-1-EDP-2-3
児童思春期精神医学	2	2	V-1-EDP-2-3
子どもの心理療法	2	2	V-1-CLI-2-3
高齢者の心理と福祉	2	2	V-1-CLI-2-3
仏教と心理学	2	2	V-1-SOP-2-3
コミュニティとシステム支援	2	2	V-1-SOP-2-3
ストレスマネジメント	2	2	V-1-EDP-2-3
チーム医療	2	2	V-1-SOP-2-3
チーム学校とシステム論	2	2	V-1-SOP-2-3
心理学の職業的展開	2	2	V-1-SOP-2-3
仕事と社会人 I	2	2	V-1-SOP-2-3
心理学プロジェクト社会連携演習	2	2	V-1-SOP-2-3
生涯発達臨床心理学	2	2	V-1-CLI-2-2
ライフサイクルとカウンセリング	2	2	V-1-CLI-2-2
家族療法とシステムズアプローチ	2	2	V-1-CLI-2-2
目からウロコのコミュニケーション学	2	2	V-1-SOP-2-2
知覚・認知心理学	3	2	V-1-EXP-3-3
精神疾患とその治療	3	2	V-1-CLI-3-3
感情・人格心理学	3	2	V-1-EXP-3-3
心理関係行政論	3	2	V-1-SOP-3-3
司法・犯罪心理学	3	2	V-1-CLI-3-3
産業・組織心理学	3	2	V-1-SOP-3-3
学習・言語心理学	3	2	V-1-EXP-3-3
社会・集団・家族心理学	3	2	V-1-SOP-3-3
量的心理学研究	3	2	V-1-EXP-3-3
質的心理学研究	3	2	V-1-EXP-3-3
生理学データと現場心理学（基礎）	3	2	V-1-EXP-3-3
臨床催眠学	3	2	V-1-CLI-3-3
生理学データと現場心理学（応用）	3	2	V-1-EXP-3-3
子育てとソーシャルサポート	3	2	V-1-SOP-3-3
音楽療法	3	2	V-1-CLI-3-3
ダンスセラピー	3	2	V-1-CLI-3-3
乳幼児の理解と支援実習	3	2	V-1-EDP-3-3
教育と心理支援	3	2	V-1-EDP-3-3
発達障害のアセスメント	3	2	V-1-EDP-3-3
心理的アセスメント II	3	2	V-1-CLI-3-3
不登校・いじめとスクールカウンセリング	3	2	V-1-EDP-3-3
青年心理と友人関係	3	2	V-1-EDP-3-3
思春期とジェンダー心理学	3	2	V-1-EDP-3-3
大人の発達障害	3	2	V-1-EDP-3-3

科目名	年次	単位	科目ナンバリング
思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ	3	2	V-1-EDP-3-3
中年期の危機とうつ	3	2	V-1-CLI-3-3
コミュニティ・アプローチ	3	2	V-1-SOP-3-3
愛着障害と親子関係	3	2	V-1-EDP-3-3
保育の心理学	3	2	V-1-EDP-3-3
障害児支援と療育	3	2	V-1-EDP-3-3
学童期の遊びと対人関係	3	2	V-1-EDP-3-3
発達障害と応用行動分析	3	2	V-1-EDP-3-3
思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ	3	2	V-1-EDP-3-3
フォーカシングと体験過程療法	3	2	V-1-CLI-3-3
ひきこもりと精神的健康	3	2	V-1-SOP-3-3
認知行動療法	3	2	V-1-EXP-3-3
エンカウンターグループと回想法	3	2	V-1-CLI-3-3
ビハラーカウンセリング	3	2	V-1-CLI-3-3
死生観教育と心理療法	3	2	V-1-EDP-3-3
認知症の心と家族支援	3	2	V-1-CLI-3-3
高齢者の理解と支援実習	3	2	V-1-CLI-3-3
人格心理学と精神力動論	3	2	V-1-EDP-3-3
医療におけるシステムズアプローチ	3	2	V-1-SOP-3-3
緩和ケアとこころの治癒力	3	2	V-1-CLI-3-3
家族療法とコミュニケーション・アプローチ	3	2	V-1-CLI-3-3
学校システムにおける精神疾患と家族	3	2	V-1-EDP-3-3
不登校の解決と協働	3	2	V-1-EDP-3-3
発達障がいと家族	3	2	V-1-EDP-3-3
ひきこもりと家族支援	3	2	V-1-SOP-3-3
虐待と家族支援	3	2	V-1-SOP-3-3
ポジティブ心理学	3	2	V-1-CLI-3-3
コーチング心理学	3	2	V-1-SOP-3-3
コンサルテーション・リエゾン精神医学	3	2	V-1-CLI-3-3
構造派家族療法	3	2	V-1-CLI-3-3
保護者支援とチーム学校	3	2	V-1-EDP-3-3
コンサルテーション演習	3	2	V-1-CLI-3-3
特別支援とシステムズアプローチ	3	2	V-1-EDP-3-3
ブリーフセラピーとソリューション	3	2	V-1-CLI-3-3
非行と家族支援	3	2	V-1-CLI-3-3
オープン・ダイアログ演習	3	2	V-1-SOP-3-3
キャリアカウンセリング	3	2	V-1-SOP-3-3
スポーツ心理学	3	2	V-1-SOP-3-3
スポーツ・メンタルリハーサル	3	2	V-1-EXP-3-3
マインドフルネス・ヨーガ	3	2	V-1-EXP-3-3
事例演習アドバンスⅠ	4	2	V-1-CLI-4-3
事例演習アドバンスⅡ	4	2	V-1-CLI-4-3
仕事と社会人Ⅱ	3	2	V-1-SOP-3-3

V その他の教育課程・教育プログラム

心理学部の教育課程の他にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

1. データサイエンス・AIリテラシープログラム

本学が全学的に展開するデータサイエンス教育として、「データサイエンス・AIリテラシープログラム」を開設します（2022年度以降入学生対象）。

日本政府は、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(物理空間)が高度に統合された社会「Society5.0」を提唱しています。このような社会では、フィジカル空間の膨大なデータをサイバー空間に蓄積し、そのデータをAI(人工知能)で解析し、その結果をフィジカル空間にフィードバックすることで、経済発展や社会課題の解決が実現されると考えられています。

このような新しい社会の到来に備えて、ビッグデータから有用な情報を可視化し、意思決定を行い、機械学習などのAI技術で結果を分析・予測するスキルを身につけることが重要です。

そのために、これから社会に出る大学生には、データサイエンス・AIに関する基礎的な知識やスキルが不可欠です。また、社会の変化に対する意識を持つことや、データを扱う上での倫理観が求められます。本学ではこれらのことを学ぶために「データサイエンス・AIリテラシープログラム」を全学的に展開しています。

(1) プログラムの概要

データサイエンス・AIリテラシープログラムは、以下の①②で構成されます。

- ① 教養教育科目「データサイエンス・AI入門」
- ② 教養教育科目、学部専攻科目、学部共通コース科目のうちプログラム科目として指定する科目

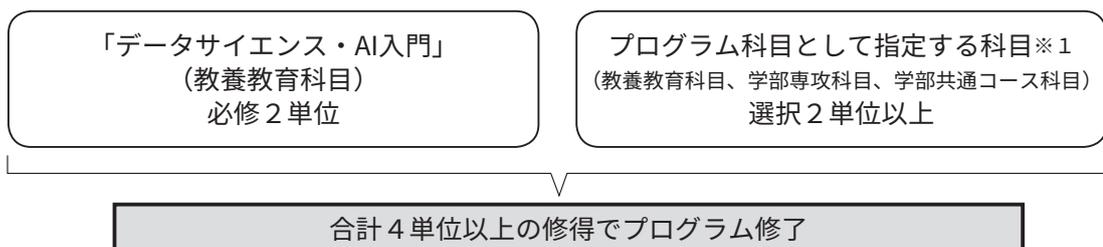
(2) プログラムの修了要件

データサイエンス・AIリテラシープログラムは、教養教育科目「データサイエンス・AI入門」（2単位）を必修科目として、教養教育科目、学部専攻科目、学部共通コース科目のうちプログラム科目として指定する科目※1の中から2単位以上を選択して修得し、合計4単位以上を修得することがプログラム修了の要件です。

(3) 修了の認定

データサイエンス・AIリテラシープログラムの修了要件を満たした学生については、各年度末に修了認定の結果をポータルサイトを通じてお知らせします（希望する学生にはプログラム修了証を発行します）。

<データサイエンス・AIリテラシープログラム>



※1 教養教育科目、学部専攻科目のうちプログラム科目として指定する科目

〈教養教育科目のうち指定する科目〉

科目名	単位数	配当年次	備考
社会統計学のすすめ	2	1年次～	深草学舎・瀬田学舎開講
確率・統計入門	2	1年次～	深草学舎開講
生活の中の統計技術	2	1年次～	瀬田学舎開講

〈心理学部専攻科目のうち指定する科目〉

科目名	単位数	配当年次	備考
心理学研究法概論	2	2年次～	
心理学統計法概論	2	2年次～	
心理学とデータサイエンス	2	2年次～	
心理学実験	1	2年次～	

2. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種インターンシッププログラム

留学／国際交流プログラム	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成及び「多文化共生キャンパスの実現」を目的として、学生の海外派遣及び外国人留学生の受入を積極的に推進するため、様々な留学制度や国際交流プログラムを整備しています。交換留学や私費留学に加えて、龍谷大学の海外拠点を活用して展開されるRIP (Ryukoku Intercultural Program) や短期海外派遣プログラム等の多様なプログラムが展開されています。また、グローバルコモンズにおいては、英会話レッスン、英語ディスカッション等さまざまな英語学習プログラムを提供しています。</p> <p>TOEIC®、TOEFL®、IELTS™等の英語資格試験や初修外国語の教材も幅広く取り揃えているため、検定試験対策はもちろんのこと、備え付けのパソコンを利用した海外とのコミュニケーション等、幅広い活用が可能です。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面でグローバル化が急速に進む現在、海外の大学での学修、国内外での異文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>(担当窓口) グローバル教育推進センター 深草学舎 和顔館1階／瀬田学舎 智光館2階 ※単位認定に関する相談は心理学部教務課〔1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階〕</p> <p>(関係情報) ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センターホームページ (URL) https://intl.ryukoku.ac.jp (QRコード) </p> <p>・龍谷大学グローバル教育推進センター 交換留学マンズリーレポート (URL) https://www.mrepo.jp/ (QRコード) </p>

大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の約50の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p> <p>なお、出願については、大学コンソーシアム京都のホームページの「単位互換・京カレッジポータルサイト」から出願手続きを行ってください。</p>	<p>(担当窓口) 心理学部教務課〔1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階〕 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、心理学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト (URL) https://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html</p>  
「放送大学科目」履修制度	担当窓口・関係情報
<p>放送大学とは、テレビ・ラジオ、またその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。</p> <p>本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって修得した単位を卒業要件単位として認定されます。この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。</p>	<p>(担当窓口) 心理学部教務課〔1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階〕</p> <p>(履修に関する情報) 心理学部では単位認定を行いません。</p> <p>(関係情報) ・放送大学 (URL) https://www.ouj.ac.jp</p> 

RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム	担当窓口・関係情報
<p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして企業・団体等と協定を締結して「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」を実施しています。</p> <p>このプログラムは、建学の精神にもとづくきめ細かな実習前後の学修を通じて、職業観・勤労観を醸成する本学独自の特色あるプログラムです。</p> <p>2022年度入学生からは、「教養教育科目特別講義（キャリア入門）」を実習前の学修と位置づけ、この特別講義を登録および受講することで、夏期休業期間中に開講される1・2年次生対象の「キャリア実習・実習指導（実習・事後学修）」を履修することができます。</p> <p>このプログラムに積極的に参加することでコミュニケーション力や人に働きかけ巻き込む力、主体性や行動力等社会で求められる様々な能力を身につけることができます。</p> <p>少しでも興味を持った方は、履修要項WEBサイトの「(3) インターンシップ制度」を確認し、4月に開催する説明会に参加しましょう。</p>	<p>(担当窓口) インターンシップ支援オフィス 深草学舎 5号館1階／瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> <p>(関係情報) ・インターンシップ (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/support/internship.html</p> <p>・「インターンシッププログラム パンフレット」 (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/statistical/</p>   
大学コンソーシアム京都 「インターンシップ・プログラム」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム（コーオプ教育）として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p> <p>「学生ならではの経験がしたい！」 「社会人になる力をつけたい！」 「“働く”をイメージしたい！」 「自分の強みや課題に気づきたい！」 「地域・社会に貢献したい！」 「他大学生と交流したい！」</p> <p>1つでもあてはまる方に、 【大学コンソーシアム京都のインターンシップ】をお勧めします。</p>	<p>(担当窓口) 【単位認定に関する問い合わせ】 心理学部教務課〔1・2年次生は深草学舎 6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階〕</p> <p>【プログラムに関する問い合わせ】 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都内 TEL：075-353-9106</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 インターンシップサイト (URL) https://consortiumkyoto-internship.jp/</p>  

3. 留学の単位認定について

1) Ryukoku Intercultural Program留学

(1) 5-week summer program、5-week spring program

- ① 上限認定単位：6単位
- ② 単位認定科目等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
英語集中講義	2	English language (Ryukoku Intercultural Program)	教養
講義	2	Lecture (Ryukoku Intercultural Program)	教養
Community Service Learning	2	Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)	※

※「Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)」の単位認定については、受講生が専攻科目、教養教育科目のいずれかの分野への認定を選択することができます。専攻科目で単位認定された場合は【選択専攻科目】、教養教育科目で単位認定された場合は【選択教養科目】として扱われます。

(2) Fall semester program、Spring semester program

- ① 上限認定単位：18単位
- ② 単位認定科目等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
英語集中講義	10	・英語総合1(A),1(B),2(A),2(B) ※ ・英語総合3(A),3(B),4(A),4(B) ※ ・English language (Ryukoku Intercultural program) ※	教養
講義	4	Lecture (Ryukoku Intercultural Program)	教養
Community Service Learning	4	Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)	※

※留学期間中に配当されるセメスター分の言語必修科目（必修外国語：英語）として単位認定可能です。また、未履修である言語必修科目（必修外国語：英語）についても認定が可能です。言語必修科目（必修外国語：英語）認定後の余剰分の単位については「English language (Ryukoku Intercultural Program)」として単位認定を行います。

☆English language (Ryukoku Intercultural Program)・Lecture (Ryukoku Intercultural Program)・Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)の単位認定については、受講生が専攻科目、教養教育科目いずれかの分野への認定を選択することができます。専攻科目で単位認定された場合は【選択専攻科目】、教養教育科目で単位認定された場合は【選択教養科目】として扱われます。

2) 交換留学・私費留学における単位認定

(1) 認定の上限及び分野：原則として、言語科目、選択専攻科目、フリーゾーンの範囲内

(2) 1単位の認定にあたっての学修時間の目安

講義科目：675分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回÷2）

語学科目・実技科目：1,350分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回）

★留学にあたって必要な書類

(※印のあるものは単位認定にあたって必要な書類です。希望者のみ提出してください)

【出発前】

- ・単位認定を希望する場合は出発前に手続きを行ってください。
- ・卒業要件単位を全て満たしている卒業保留希望者は、原則として帰国後の単位認定は行いません。(注1)

書 類	所定用紙	提 出 先
渡航方法連絡票・滞在先連絡票	グローバル教育推進センターホームページ	(交換留学) グローバル教育推進センター (私費留学) 心理学部教務課
※単位認定の申込について	心理学部教務課	心理学部教務課
卒業保留願い(卒業年次生のみ) [注1]		

【帰国後】

書 類	所定用紙	提 出 先
留学生帰国報告書	グローバル教育推進センターホームページ	(交換留学) グローバル教育推進センター (私費留学) 心理学部教務課→グローバル教育推進センター
留学帰国レポート		
成績証明書	留学先大学	(交換留学) グローバル教育推進センター (私費留学) 心理学部教務課
修了証明書		
※単位認定申請書	心理学部教務課	心理学部教務課
※講義科目報告書		
※履修科目の登録確認表等(時間割・単位数等が記入されたもの)	留学先大学	心理学部教務課
※学年暦		
※シラバス		
※受講時間割		

☆卒業年次生で帰国後卒業を希望する学生の書類提出期日は1月末日です。

(3) 卒業年次に留学する場合の注意点

留学終了後直ちに卒業するためには次の条件をすべて満たす必要があります。書類での手続きが必要なため、事前に心理学部教務課に相談に来てください。

- ① 留学終了後に認定が確実な科目を除いて、卒業年次の残単位数が「心理学演習」「卒業研究」の8単位以下であること。
- ② 卒業研究の内容が、留学先での勉学と密接に関係があり、留学先の教員による卒業研究指導を受けることができること。
- ③ 留学中においても、心理学部指導教員および心理学部教務課と定期的に連絡をもてるようにすること。

第3部 諸課程

心理学部では、大きく5の資格課程が設置されています。4年間で卒業という前提と1週間34講時という時間割の制限のもとでの資格取得であるので、複数の資格の取得を必ずしも保証することはできません。したがって、皆さんは、卒業までの履修計画と卒業後の将来計画に応じて、取得すべき資格を選択する必要があります。特に学問分野の異なる複数の資格の取得を目指す場合は、4年間もしくはそれ以上にわたる綿密な履修計画を立てなければなりません。

また教育実習のように、一定期間を実習に専念しなければならない科目もあるため、職業や家庭の事情等で履修が困難であると予想される場合には、本人の努力によって、それらを解決し、履修を可能とするために調整する必要があります。学生の個々の事情に対するすべての調整を大学側に求めることはできません。学生個々の事情により履修が不可能であると最終的に判断された場合には、当然のことながら資格取得を断念しなければなりません。

I 諸課程	80
1. 諸課程	
教職課程	
本願寺派教師資格課程	
公認心理師受験資格課程	
認定心理士受験資格	
児童指導員任用資格・児童の遊びを指導する者任用資格	
2. 特別研修講座・各種講座・試験	

I 諸課程

1. 諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。教職課程の履修にあたっては、「履修要項別冊 教職課程ガイドブック」を熟読してください。</p> <p>また、教職センターでは、教職課程履修者を対象に教員採用試験突破のための基礎力・実践力セミナーなども実施しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館 1階 大宮学舎 西翼 1階 瀬田学舎 3号館 1階</p> <p>(関係情報) 教職センターHP (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku</p> 
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>本願寺派教師資格課程は、浄土真宗本願寺派における寺院の住職や布教使になるために必要となる資格課程です。本学では、本願寺派教師資格に関する養成施設としての認定を受け、資格課程にかかわる科目を開設しており、1回生から受講することが可能です(受講する場合は、科目一覧を確認のうえ、履修登録をしてください)。</p> <p>この課程は、最終的には浄土真宗本願寺派が実施する本資格に関連する試験・研修を受けなければなりません。</p> <p>資格制度の詳細について、不明な点等がありましたら、浄土真宗本願寺派僧侶養成部に尋ねてください。</p> <p>履修に関する詳細については、担当窓口に尋ねてください。</p>	<p>(担当窓口) 心理学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) 履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 
公認心理師受験資格課程	担当窓口・関係情報
<p>公認心理師とは、心理学の国家資格です。公認心理師試験を受験するためには、大学で所定の科目を修得した上で、大学院で所定の科目を修得、または大学卒業後2年以上の実務経験が必要です。</p>	<p>(担当窓口) 心理学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) 履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 

認定心理士受験資格	担当窓口・関係情報
<p>認定心理士は心理学を実践する者にとって必要な基礎的な資格です。</p> <p>この資格は、認定機関の規定により資格取得希望者が個人の資格（自己責任）で申し込むことになっています。本学の履修要項では、これらの資格に必要な科目と大学が開設する科目とが対応するように配慮されていますが、資格は各機関が独自の基準で認定します。つまり、基準に合致するか否かの最終判定はすべて当該機関の権限において行われますので、大学で履修した科目と単位が自動的に認定されるということではありません。また、認定基準も随時変更されます。したがって、申請する場合には、大学の履修科目の内容や単位数の有効性などの確認も含めて、事前に必ず各自で当該機関に問い合わせの上、手続きを進めてください。</p> <p>履修指導期間中（3月末の予定）に説明会を開催する予定ですので、希望者は必ず本「授業科目履修要項」を持参し出席してください。</p>	<p>(担当窓口) 心理学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) 履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 
児童指導員任用資格・児童の遊びを指導する者任用資格	担当窓口・関係情報
<p>児童施設において直接児童とかかわる職種を目指す場合に有効な資格として、「児童指導員任用資格」、「児童の遊びを指導する者任用資格」があります。</p> <p>「児童指導員」は児童養護施設で、「児童の遊びを指導する者」は、児童厚生施設で必置とされる職種です。</p> <p>心理学部を卒業すると、この任用資格が得られますが、法律の定めにより、これら職種に任用されるための条件があります。</p>	<p>(担当窓口) 心理学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) 履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 

2. 特別研修講座・各種講座・試験

課程・講座	目的・内容	担当部署
国際伝道者養成課程	<p>広く国際的な素養として英語で仏教・浄土真宗を学修することや、海外の仏教事情に関心を持つ方を対象にした課程であり、また同時に、将来、浄土真宗本願寺派の海外開教区で伝道者として活躍できる人材養成を目的とした講座です。</p>	(深草／大宮) 文学部教務課
矯正・保護課程	<p>刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や、犯罪をおかしたり非行をおこなった人たちの社会復帰を手助けする保護観察官等の専門職やボランティアを養成するために、実務に即した教育プログラムを提供しています。</p> <p>なお、「矯正・保護課程」開設科目を履修し、所定の修了要件（①開設科目を16単位以上修得していること、②施設参観に2日以上参加すること）を満たした学生には、「矯正・保護課程修了証明書」（独自の課程修了証明書）を発行しています。</p>	矯正・保護総合センター事務部 深草学舎 4号館2階 〈各学舎申し込み窓口〉 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西翼1階 (瀬田) 社会学部教務課 瀬田学舎 6号館1階
法職課程	<p>各種公務員試験（国家一般職、地方上級等）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、法律科目を体系的かつ効率的に学習できる講座や最新の試験情報などを提供しています。また、法職カウンセラーが常駐し、学習方法や受験対策のアドバイスを行っています。</p>	法学部教務課 深草学舎 紫英館1階
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※開講する学舎が限定されている講座があります。	<p>キャリアアップに向けた資格取得や公務員試験などの対策が必須の就職を支援するために、各種講座を開講しています。資格取得等に信頼と実績のある有名予備校等と提携し、一人ひとりの目標や夢の実現をバックアップします。</p> <p>〈資格系〉 宅地建物取引士講座／旅行業務取扱管理者講座／社会福祉士国家試験講座 〈語学系〉 TOEIC® Listening & Reading Test対策講座 〈就職対策〉 公務員講座／エアライン就職対策講座</p>	キャリアセンター 深草学舎 5号館1階 大宮学舎 東翼2階 瀬田学舎 1号館1階
手話講座	<p>〈手話講座〉 社会福祉法人全国手話研修センターとの連携事業により、「手話入門講座」「手話コミュニケーション講座」「手話通訳講座」を実施しています。「手話コミュニケーション講座」では全国手話検定試験2級合格を、「手話通訳講座」では手話通訳者全国统一試験合格を目指します。</p> <p>2023年度の講座実施については、実施が決定次第、ポータルサイト等で案内します。</p>	REC事務部 深草学舎 4号館2階 〈手話講座〉 社会福祉法人全国手話研修センターホームページ (https://www.com-sagano.com/kenshu/ryukoku) 

第4部 学修生活の手引き

I	窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室	84
	1. 窓口事務	
	2. 保健管理センター	
	3. 障がい学生支援室	
II	授業等の休講措置に関する取扱基準 (自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)	85
III	学籍の取り扱い	86
	1. 学籍とは	
	2. 学籍簿	
	3. 学生証	
	4. 学籍の喪失	
	5. 休学と復学	
	6. 再入学	
	7. 編入学・転入学	
	8. 9月卒業	

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、履修要項WEBサイトに掲載していますので、確認してください。
(<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)

主に次の情報を掲載しています。

- (1) 窓口取扱時間
- (2) 届出書・願書および各種証明書
- (3) 各種証明書の交付について
- (4) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて



2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学HP『保健管理センター』に掲載しています。

(<https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をHPで確認するようにしてください。

その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 緊急時には
- (2) 学校感染症に罹患した場合には
- (3) カウンセラーに相談したい
- (4) 保健師・看護師に相談したい
- (5) 医師の診療を受けたい
- (6) 急な怪我をした
- (7) タバコをやめたい
- (8) 健康チェックをしたい
- (9) 健康診断
- (10) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (11) AEDについて知りたい



3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学HP『障がい学生支援』に掲載しています。

(<https://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php>)

HPでは主に次の情報を掲載しています。

- (1) 障がい学生支援室について
- (2) 支援を希望される方へ
(支援の内容、支援の申し出方法、障がい学生支援室の紹介)
- (3) 支援をしたい方へ（学生スタッフ募集）
- (4) よくある質問（Q&A）



II 授業等の休講措置に関する取扱基準 （自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について）

自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱については、「授業等の休講措置に関する取扱基準」によります。

- 授業等の休講措置に関する取扱基準：

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html



「授業等の休講措置に関する取扱基準」に定める自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無については、以下の方法で確認することができます。

確認方法		説明
(1) 龍谷大学ホームページ https://www.ryukoku.ac.jp/		トップページに「重要なお知らせ」として授業実施の有無を記載します。
(2) ポータルサイト https://portal.ryukoku.ac.jp		ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。
(3) 公式 Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」 https://twitter.com/Ryukoku_univ (@Ryukoku_univ)		大学全体に関わる緊急情報の速報発信を目的として、本学公式Twitterアカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、公式Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」の利用を推奨します。

III 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明証（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

V	23	0	001
L：文学部	入学年度(西暦)の下2桁	学生区分(主たる学生区分を記す)	学部内における個人番号
E：経済学部		学部生：0～7	
B：経営学部		編転入生：8	
J：法学部		再入学生：9	
T：理工学部		修士課程：M	
C：社会学部		博士後期課程：D	
W：国際文化学部		短大専攻科生：A	
H：政策学部		専門職学位課程生：F	
U：国際学部		研究生：R	
N：農学部		特別専攻生：S	
Y：先端理工学部		科目等特別履修生：U	
V：心理学部		科目等履修生：V	
S：短期大学部		外国人特別留学生・交換留学生：Y	
M：実践真宗学研究科			
R：留学生別科			

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。

頭のアルファベット（学部等をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にするものとして、学籍簿（入学手続き時に各自がWeb入学手続きにて登録）が編成されます。学籍簿に登録される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに心理学部教務課窓口に届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 試験を受けるとき。
 - ② 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ③ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ④ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑤ 図書館を利用するとき。
 - ⑥ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」(学生証裏面に貼付)は、毎年度学年始めに配布します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら(在学は、必ず前年度のシールをはがしたうえで)、速やかに新しいシールを貼ってください。

シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。

なお、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は、無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに心理学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。ただし、「在籍確認シール」に記載されている“通学区間情報”を変更する場合は、ポータルサイトの“連絡先・通学情報登録”画面にて変更のうえ、心理学部教務課窓口で「在籍確認シール」の交付を受けてください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに心理学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再発行願」(紛失・破損届)に必要な事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)・生協事務室に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再発行については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再発行願を出力できますので、所定の手続きを心理学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再発行には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに心理学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失(本学の学生でなくなる)する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失(本学の学生でなくなる)することです。

依願退学は、学生の意志によるものであることから、いつでも願い出ることはできますが、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
- イ 当該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応しますので相談してください）。

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることとはできません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを除籍として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- ② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ③ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により願い出ること。
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ③ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。
1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに心理学部教務課窓口に大学所定の書類を提出してください。なお、受付は窓口の開室日に限ります。
- ② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料（200,000円（年間））を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。復学の願い出は、学期開始日の前1ヶ月以内にしなければなりません。

(5) 休学による学年進行

学年進行するためには、各年度末の時点で当該学年における1年以上の在学歴が必要となります。例えば1年生の時に第1学期もしくは第2学期のいずれか1学期間の休学をした場合、在籍2年目となる翌年度の一年間も1年生の扱いとなります。このことにより、在籍2年目も1年生対象の科目しか受講できない可能性がありますので、休学する場合は履修計画に注意してください。

6. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を心理学部教務課窓口へ速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがある。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則第18条の3）

※本学の他学部（学科・専攻）への転入学の場合は、学則19条に基づく退学の手続きが必要となります。

8. 9月卒業

第1学期（前期）末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません）。詳細については心理学部教務課窓口で相談してください。

第5部 ルーブリック

I 「ルーブリック」とは	92
II 心理学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック	93
III 卒業研究ルーブリック	95

I 「ルーブリック」とは

ルーブリックとは評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」により構成されたものです。ルーブリックを活用することにより、学修の目標が明確にされます。また、先生と学生の皆さんの双方が現時点の達成水準を客観的に把握することができます（中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』2012年8月28日参照）。

卒業研究ルーブリックは心理学部の4年間の学修の集大成である卒業研究の自分の達成水準を知るために使うものです。また、アカデミック・リテラシー・ルーブリックは心理学部の皆さんが卒業の時までに備えてほしい基礎的な能力です。いずれも右の列に行くほど達成水準が高くなっていきます。これらのルーブリックを活用することで、学生の皆さんが卒業時までに習得していかなければならない能力を事前に知るとともに、今自分がどの位置にいるのかを知ることができます。

なお、ここで示したルーブリックはあくまでも一例です。これによる評価が皆さんの単位認定に関わる評価にそのまま結びつくとは限りません。

II 心理学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック

- *1 このアカデミックスキル・ルーブリックは学生の皆さんが、龍谷大学の心理学部生として求められるスキルを、どの程度達成できているかを確認するためのものです。
- *2 おりにふれて、このルーブリックで自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りないものを確認し、各自の学修を深めるツールとして利用してください。

		相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
①：建学の精神の具現化	建学の精神の意義について理解している。	大学の主催する宗教行事などにまったく参加しておらず、建学の精神も理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにあまり参加しておらず、建学の精神をあまり理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにある程度参加し、建学の精神を理解しようと努めている。	大学の主催する宗教行事などに積極的に参加し、建学の精神を体現・実行できている。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	人間社会において「言語(ことば)」の持つ影響力について深く理解し、人文学の幅広い知識を身につけている。	「言語(ことば)」の持つ力をまったく理解できていないため、テキストの読解ができず、人文学の幅広い知識の修得もできていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が必ずしも理解できていないため、テキストを正確に読解ができず、人文学の幅広い知識の修得も不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が一定程度理解できているため、一定程度テキストの読解ができ、幅広い人文学を学んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が深く理解できているため、テキストの正確な読解ができ、人文学の幅広い知識が身につけている。
	日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝えるための方法を身につけている。	正確な日本語能力がなく、自らの意見を伝えることができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、日本語能力を持ち、自らの意見をなんとか伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見を伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見を分かりやすく伝えることができる。
	外国語運用能力や豊かな教養を身につけている。	外国語運用能力をはじめとした教養の学修にまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修に必ずしも積極的に取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修にある程度積極的に取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修に積極的に取り組んでいる。
	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができる。	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができない。	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することが十分できない。	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができる。	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することが十分できる。
	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけている。	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルも身につけていない。	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルも十分に身につけていない。	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけている。	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを十分身につけている。
	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や幅広い教養を身につけている。	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や教養をまったく身につけていない。	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や教養を身につけることが十分にできていない。	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や教養のある程度身につけることができている。	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や教養を十分に身につけることができている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。	他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけている。
	自らが設定した課題について、探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を多角的に身につけている。	課題の探求から解決にむけた能力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が十分身につけている。

		相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
	論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。	現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、判断できない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、判断することが不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、ある程度判断できる。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、十分判断できる能力がある。
	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけている。	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力をまったく身につけていない。	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけていない。	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけている。	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を十分に身につけている。
	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができる。	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができない。	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することが十分できない。	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができる。	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することが十分できる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	多様な価値観を認め、言語（ことば）の学修をはじめとした学びを通じて自己の認識を広げ、異なる価値観を受容することができる。	多様な価値観に対する理解がなく、共生の理念に対する理解がない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念が明確に理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解を持ち、共生の理念を体現できている。
	他者との交流や異なる価値の受容を通じて、自己を客観視し、他者と協働することができる。	他者との交流や協働することができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値の受容や自己を客観視することが不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値の受容や自己を客観視することがある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値の受容や自己を客観視することが十分身につけている。
	社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が必ずしも身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な就業力がある程度身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が身につけている。
	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができる。	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができない。	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることが不十分である。	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができる。	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を大きく受け入れることができる。
	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができる。	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができない。	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することが不十分である。	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができる。	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に積極的に尽力することができる。
	よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生涯就業力を身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な生涯就業力が身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な生涯就業力が必ずしも身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な生涯就業力がある程度身につけている。	確固とした職業観や勤労観、持続可能で柔軟な就業力が身につけている。

III 卒業研究ルーブリック

※卒業研究にかかわる学修進度の目安です。あくまでも一例とし、詳細は、教員の指導に従ってください。

		1	2	3	4	5
先行研究		国内の先行研究を把握できていない。	国内の先行研究を把握しているが、整理して説明できない。	国内の先行研究を把握し、整理して説明できる。	国外の先行研究も把握しているが、整理して説明することができない。	国内外の先行研究を把握し、整理して説明できる。
問題	設定	問題の設定が曖昧である。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題であるとはいえない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	適切で明確な問題を設定しているが、独創性はない。	適切で明確な問題を設定しており、独創性がある。
	仮説	仮説の構成が不適切である。仮説が提示されていない。	仮説の構成がやや不適切である。定時が曖昧である。	仮説がある程度適切に構成され、提示されている。	仮説が概ね適切に構成され、提示されている。	仮説が適切に構成され、明確に提示されている。
	論述	全く客観的・論理的ではない論が進められている。	やや客観的・論理的ではない論が進められている。	ある程度、客観的・論理的に論が進められている。	概ね客観的・論理的に論が進められている。	客観的・論理的に論が進められている。
資料	選択	適切ではない資料を使用しているか、資料を使用していない。	適切な単一の資料(翻訳)を使用している。	適切な単一の資料(原語)を使用している。	適切な複数の資料(翻訳)を使用している。	適切な複数の資料(原語)を使用している。
	読解	ほぼ全体を通して、資料を正しく読解できていない。	資料が正確に読解できている部分とできていない部分が半々である。	7割方読解できている。	若干の問題はあるが、ほぼ正確に資料を読解できている。	資料を正確に読解できている。
	分析	資料が適切に分析できていない。	概ね適切に分析できているが、説明が不十分である。	概ね適切に分析し、それを説明することができている。	資料を適切に分析できているが、説明が不十分である。	資料を正確に分析し、それを十分に説明できている。
考察	データ	研究方法に照らし、不適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータがかなり提示されている。	研究方法に照らし、不適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータが一部提示されている。	研究方法に照らし、ある程度適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータが提示されている。	研究方法に照らし、概ね適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータが提示されている。	研究方法に照らし、適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータが提示されている。
	結果	資料の分析に基づいておらず、論理的整合性にも欠ける。	概ね資料の分析に基づいているが、論理的整合性に欠ける。	概ね資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、論理的整合性をもった考察を加えている。
表現	文章化	伝達したい内容を的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、あまり的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、7割方は的確に文章化できている。	伝達したい内容を、ほぼ的確に文章化できている。	伝達した内容を全て的確に文章化できている。
	誤字・脱字	誤字・脱字が非常に多い。	誤字・脱字がやや目立つ。	誤字・脱字が3、4箇所ある。	若干(1、2箇所)の誤字・脱字がある。	誤字・脱字が全くない。
基本的技術	典拠・典拠箇所の明示	典拠・典拠箇所が殆ど明示されていない。	典拠は示されているが、典拠箇所が明示されていない。	典拠・典拠箇所の明示が欠けている部分がある。	典拠・典拠箇所がほぼ明示されている。	典拠・典拠箇所が全て明示されている。
	参考文献表の作成	参考文献がリスト化されていない。	参考文献表に欠落・余分があり、書式も適切ではない。	適切な書式ではあるが、参考文献表に欠落・余分がある。	参考文献表に欠落・余分はないが、書式が適切ではない。	適切な書式で、欠落・余分なく参考文献表が作成されている。
	論文の書式	指定の書式に全く従っていない。	指定の書式にあまり従っていない。	指定の書式に7割方従っている。	指定の書式にほぼ従っている。	指定の書式に全て従っている。

編集発行

龍谷大学心理学部教務課

(大宮学舎)

〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1
TEL (075) 343-3317 (代表)
FAX (075) 343-4302

(深草学舎)

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL (075) 642-1111 (大代表)
FAX (075) 645-6444

<https://www.ryukoku.ac.jp/>

